

平成 17 年度
年 報

市立大町山岳博物館

目 次

平成 17 年度の活動から……………	1		
資料収集・保存管理事業		動植物飼育栽培繁殖事業	
1. 資料収集……………	3	1. 動物飼育繁殖……………	28
(1) 新規収集資料		(1) 飼育動物	
2. 資料保存管理……………	3	(2) 傷病鳥獣保護	
(1) 収蔵資料		2. 植物栽培繁殖……………	29
(2) 所蔵図書		(1) 栽培植物	
調査研究事業		ライチョウ保護事業	
1. 調査研究……………	6	1. 大町山岳博物館ライチョウ保護事業検	
教育普及事業		討委員会……………	30
1. 展示……………	9	2. 大町市ライチョウ保護事業計画策定委	
(1) 常設展示		員会……………	30
(2) 企画展示		3. 大町市におけるライチョウ保護事業の	
(3) 特別展示		展開方針……………	32
(4) その他		4. 第 5 回ライチョウ会議山梨大会…	33
2. 館内活動……………	13	その他	
(1) 学習会・講座の開催		1. 各種委員などの委嘱……………	35
(2) 各種学習会・講座への協力		2. アスベスト検査による緊急臨時休	
(3) 各種実習の受入		館……………	35
(4) 収蔵資料の貸出		3. 市町村合併にともなう住所表記の変	
3. 館外活動……………	17	更……………	35
(1) 学習会・観察会の開催		運営	
(2) 各種観察会・学習会への協力		1. 組織および職員構成……………	36
(3) 調査研究に関する発表		2. 協議会……………	36
4. 執筆・出版……………	20	3. 入館者状況……………	37
(1) 執筆		4. 平成 17 年度予算・決算……………	40
(2) 出版		関係条例・規則等	
5. インターネット・ウェブサイト…	24	1. 市立大町山岳博物館条例……………	41
(1) 公式ウェブサイト		2. 市立大町山岳博物館規則……………	43
(2) 安曇野アトラインウェブサイト		3. 大町市ライチョウ保護事業計画策定委	
6. 友の会……………	24	員会設置要綱……………	45
(1) 組織		施設……………	46
(2) 運営部		1. 敷地面積	
(3) 事業部		2. 本館建物	
(4) 編集部		3. 付属施設	
(5) サークル活動		利用案内……………	47
7. ボランティア……………	27		

平成 17 年度の活動から

館 長 柳澤 昭夫

槍ヶ岳を開山した播隆上人の足跡をたどる、企画展「播隆・槍への道程 善の綱をたどれば - 」を6月4日から8月9日まで開催した。合わせて、ネットワーク播隆（代表：黒野こうき氏）と共催で、6月5日、第6回播隆シンポジウムを開催した。爛熟期の江戸文化、ある意味では、退廃的とも言える繁栄を迎えながら、一方では、凶作や飢饉に苦しむ百姓の姿があった。そうした時代的背景の中で、念仏行者が各地で、民衆の信頼を集め活躍する。彼らは、遊行上人であり、修行僧であった。播隆もその一人である。

岐阜、富山、長野県に点在する播隆関係資料を集め近代登山以前の槍ヶ岳開山の過程を追った。

騒動、一揆、苦しむ百姓とともに在った念仏行者「播隆」と槍ヶ岳開山を、ネットワーク播隆の協力を得て、十分とは言い難いが、掘り起こしてみた。

企画展は8月21日までの予定であったが、本館にアスベストが使用されている疑いが発生し、検査のため8月10日から26日まで休館した。幸い、アスベストは、使用されていなかったが、企画展は、好評であっただけに非常に残念であった。また、開催予定の企画展「くさばなの一生」もアスベスト検査のため、次年度へ繰り越さざるを得なくなった。

9月3日から15日まで、特別展「近藤辰郎写真展 槍ヶ岳讃歌」を開催した。播隆展に続いて、槍ヶ岳をテーマにして、近藤さんのギャラリートークを挟んで、四季折々の魅力を紹介した。

山岳博物館は、「北アルプスの自然と登山」をテーマにしてきた。わけても、ライチョウについては、生息状況の調査と共に、わが国で唯一低地飼育に取り組み、40年にわたり飼育と繁殖技術の確立を目指してきた。平成16年2月飼育ライチョウの最後の1羽が死亡したことを契機に、平成16年9月から17年5月にかけて、今までのライチョウ保護事業について、研究者、学識経験者で検討委員会を設け、総括を行い、成果を評価し、問題点と今後の課題を明確にし、今後どうあるべきかについて提言をまとめていただいた。

提言によれば、北及び南アルプスなどの高山に、推定わずか3,000羽生息するとされるライチョウは、近年、地球規模の温暖化や登山者の増加などの影響を受けて、危機的な状況にある。コウノトリやトキのように日本から絶滅することがないように、科学的調査に基づいた保護対策が必要である。ことに山岳博物館は、関係研究機関等と連携を強め、飼育と野生復帰に関連した野外調査の充実とともに、博物館でなければできないと考えられる飼育技術の確立と未だ解明すべき課題の多い病理、生理学的研究を進めることを強く要望された。早急に飼育研究を再開することが重要である、とした上で、大町市として取り組むべき視点と課題、山岳博物館の飼育研究体制について提言をいただいた。

この報告を受け、具体的に、ライチョウ保護事業計画を作成するため、新たに、平成17

年7月に事業計画策定委員会を設け、10月には計画を取りまとめていただいた。詳細については、それぞれ専門部会を設けて検討立案することが必要であるとしながら、以下の提言をいただいた。

大町市は、山岳文化都市を宣言し、総合計画並びに環境基本計画を策定し、環境に優しい町作りを目指している。ライチョウを守ることは、健全な生活環境を守り、生物多様性を保全する事業である。大町市は、「ライチョウと共に生きる」を理念として掲げ、環境に優しい町作りの中に、ライチョウ保護事業を位置づけ、教育、環境、観光、産業など多方面の事業を一体化した大町市の総合的町作りプラン(グランドデザイン)とすることを提案された。その上で、ライチョウの生息状況調査を科学的に進めながら、将来的に、個体数の激減により、繁殖が困難になった場合に備えて、人工飼育と繁殖技術を確立し、セーフティーネットを構築するプラン(パイロットプラン)が提案された。第1段階は、近縁種(ノルウェー産ライチョウ)を用いて研究を進め人工飼育技術を確立し、第2段階に、日本産個体の長期飼育下繁殖計画を実践する。展開に当たっては、関係研究機関等との学際的連携を構築し、研究職を採用するなど調査研究体制を確立することが肝要であると提案された。

しかしながら、当市の財政事情を鑑みれば、提言された事業を直ちに展開することは困難であり、ことに、パイロットプランは、現時点では、残念ながら、計画を展開する状況にない。山岳博物館は、当面、生息域内調査を進め、その成果を環境教育に取り入れ教育活動の充実に努め、市民とともに環境という大きな課題を考えて行きたい。両委員会の提言は、当市のみならず、わが国のライチョウ保護事業にとって極めて重要な意義を持つ提言である。おそらく環境省、長野県のライチョウ保護事業の今後の取り組みにも大きな影響を与えるであろう。提言を尊重し、当面は無理としても環境省、長野県との連携を深め、パイロットプラン実現の可能性を模索していかなければならない。

山岳博物館とライチョウの関わりは、大きな転換期をむかえた。

いまや世界のあちこちにただならぬ暗雲が立ち込め、人類の未来に濃い影を落としている。オゾン層破壊や地球温暖化を筆頭にした並み居る暗雲の中でも、合成化学物質による環境汚染は他と一線を画し、私たち一人ひとりに直接関わってくる切実な問題だ。……1世紀前の曾祖父母の体には、現代人の体に巣くう数百種に及ぶ化学物質は存在していなかった。今日、化学革命のこうした負の遺産を受け継いでいない者は、もはや誰ひとりとしていない。それどころか、現代のおおかたの人間は生涯でもっとも無防備な胎児期から、合成汚染物質の洗礼を受けている。(『奪われし未来』シーア・コルボーンら 2001年)

大町は、自然環境に恵まれている。しかし、内分泌攪乱化学物質(環境ホルモン)は、確実に体内に蓄積されていく現実から免れることはできない。化学物質は、ホルモン機構を攪乱し、生殖機能、先天性異常発生などの誘因に関与していることが指摘されているばかりでなく、免疫系、遺伝子系にさえ影響をあたえていると示唆されている。

地球温暖化、化学物質の汚染による生物多様性の喪失と生態系の破壊、水循環の変化など、今や地球規模で環境を守らなければならない時代を迎えた。環境ホルモンや地球温暖化など、こうしたテーマに、山岳博物館はどうむきあうか、どう環境教育を展開するか、大きな課題を突きつけられている。

資料収集・保存管理事業

1. 資料収集

(1) 新規収集資料

平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日の間、寄贈によって次の資料を収集した。

受入日	資料名	数量	入手先		備考
			寄贈者	住所	
7/18	フリッチ製ピッケル	1点	個人	奈良県	ヘッド部分
7/22	冊子『マナスル登頂と毎日新聞』	1点	個人	埼玉県	
8/24	ヒマラヤ高峰9座の岩石	9点	個人	群馬県	
8/25	山内製ピッケル・アイゼン	2点	個人	東京都	
8/26	登山関係新聞切抜など	13点	個人	白馬村	
8/28	ナンガパルバットの岩石	1点	個人	群馬県	
9/5	山岳関係図書、昆虫標本	896点	個人	東京都	標本ド' 竹箱2点
9/11	書籍『山木魂』	1点	個人	東京都	
9/13	マナスルの岩石	1点	個人	東京都	
10/14	ローツェ山頂の石	1点	個人	群馬県	
10/15	登山日記帳	1点	個人	東京都	
11/1	ホシガラス剥製	1点	個人	安曇野市	
11/26	スキーシール	1点	個人	東京都	
11/29	山岳関係図書	82点	個人	奈良県	
12/1	スキーシール	2点	個人	東京都	
2/13	灯油・ガソリンストーブなど	10点	(株)I.A. ニュー	東京都	

(敬称略)

また、同期間中、あらたに次の資料を寄託資料として借り受けた。

受入日	資料名	数量	借受先		備考
			寄託者	住所	
4/5	曾根原文平使用の鉈	1点	個人	大町市	

(敬称略)

2. 資料保存管理

(1) 収蔵資料

資料管理については随時、学芸員による資料整理・登録を実施。資料保存については現在、防虫処理にパラジクロロベンゼンを用いているが、プラスチックや樹脂製の材質を軟化させる影響があるとともに、人体への安全性の低さが指摘されている。そのため、来年度以降に代替剤としてエンペントリン（銅製の材質の変色に要注意）の使用を検討中であり、今年度より一部試行した。なお、どちらとも開放空間では空間体積に対して有効量に達しないために殺虫効果が低く、殺卵効果はないため、昨年度からシフェノトリンによる簡易ガス燻蒸を定期的実施（今年度は計5回実施）。

収蔵資料の点数 総計 15,997 点 (平成 18 年 3 月 31 日現在)

内訳

分類名および点数		分類名および点数	
自然科学系	合計 10,691 点	人文科学系	合計 5,306 点
菌類 (液浸標本)	129 点	山岳	3,483 点
蘚苔類 (乾燥標本)	674 点	美術	189 点
維管束植物 (液浸標本)	7 点	民俗	928 点
維管束植物 (さく葉標本)	6,000 点	歴史	49 点
魚類 (液浸標本)	62 点	考古	158 点
両生爬虫類 (液浸標本等)	72 点	寄託 (山岳、美術)	499 点
貝・甲殻類 (液浸標本)	13 点	(寄託内訳)	
哺乳類 (剥製・骨格標本)	224 点	個人寄託 240 点	
鳥類 (剥製標本)	614 点	個人寄託(ビジュアル関係) 95 点	
昆虫 (標本ドイツ箱)	166 点	団体寄託 164 点	
昆虫 (未標本作製資料)	1,000 点		
昆虫 (液浸標本)	27 点		
その他液浸標本(調査研究資料)	103 点		
地質	1,600 点		

これらの資料点数については概数である。

現状と課題

a. 自然科学系

動物 (剥製) 資料については資料カード (紙) で記録されていたが、最低限の検索・照会作業の PC 検索ができるように PC 入力を行うとともに、昭和 57 年以降実施されていなかった剥製資料と台帳との照合、学名等の誤記載の修正を行った。しかし、昆虫・地質資料については未整理である。

保管されている維管束植物 (さく葉標本) については、未整理。

昨年同様、同定・整理する時間がとれずまったく取り掛かることができなかった。動物・植物標本庫については、昆虫等の侵入を防げる室内の確保、適正な温湿度管理が最重要課題である。

b. 人文科学系

山岳資料を中心に平成 17 年度分寄贈資料や過去の未登録資料を新規登録した。ただし、記録写真は未撮影である。

現在、山岳資料に関する情報は受付台帳 (データ)・資料カード (紙)・写真 (プリントならびネガ) で記録されている。ほかの資料についてもそれらの情報は受付台帳 (データ)・資料カード (紙) で記録されている。これによって、最低限の検索・照会対応など (受付台帳から PC 検索し、資料カードや写真で詳細な情報の確認) が行なえる。将来的には、資料カードに記載された情報と撮影した写真の画像をデジタル化して詳細な情報による各資料のデータベースを構築したい。データベースの具体的な作成の方法としては、一括して外部業者へ委託する方法と、一部の作業 (写真のデジタル化のみなど) に限って外部業者に委託して市販のデータベース作成ソフト (アクセスなど) を使って職員が入力・編集作業を行う方法と、全作業を博物館の機材 (PC やスキャナーなど) を使って行う方法の 3 種類を検討したい。こうしたデータベースの構築によって外部からの照会などに対して館内でより迅速に対応できる。さらにデータを印刷物として発行したり、ウェブサイトに掲

載したりして館外に広く情報公開することで、一般の方ならびに専門家の方々による調査研究や教育普及といった活動において、当館収蔵資料を幅広く活用していただける体制づくりを進めていきたい。

一方、1階展示ケースや1階収蔵庫に気密性を持たせた空間の確保など館全体の施設改修、年間を通じた展示室・倉庫の温湿度・照度の徹底管理、収蔵庫などの出入口に粘着マットや粘着トラップを設置しての防塵・防虫対策などを含め、総合的有害生物管理の考えによった保存管理体制の抜本的な再検討が必要と考える。

(2) 所蔵図書

所蔵図書の点数

1,335冊(平成16年3月31日現在)

平成17年度以降の新規受け入れ図書点数は未整理
現状と課題

図書管理までの労力を確保できず、未入力の新規書籍が増加している。

調査研究事業

1. 調査研究

(1) 大町市におけるクロツバメシジミの生息状況（担当：清水）

平成 13 年調査から継続調査として高瀬川を中心として大町市から松川村・池田町までの間の生息地の確認と環境変化による本種の生息に与える影響についてを調べるために、生態観察をとおして 1 年間の発生回数の確認等について調査した。本年度の調査は平成 17 年 4 月 14 日～11 月 10 日まで 28 回行った。調査地域内において最も生息環境の安定している地区における本種の成虫は、5 月 6 日から 11 月 10 日まで確認され、8 月 13 日から 11 月 10 日の間は常時成虫の確認がされた（9 月下旬の 55 個体が最大個体数）。成虫の発生回数は、個体数の大きなピークより 5 月中旬・7 月中旬の小規模な発生の後、8 月中旬から 10 月上旬まで安定した発生が認められた。

(2) 大町市に生息する高山蝶 ミヤマモンキチョウについて（担当：清水）

湯俣岳周辺はミヤマモンキチョウの最低標高生息地として知られているが、本種の生息状況についての報告は少ない。本種の生息状況を把握することを目的として、平成 17 年 9 月 15 日～9 月 16 日に本種の発生状況について調査した（当初計画では 6 月と 7 月の 2 回を計画）。昨年本種の卵を確認できた地点を重点的に幼虫を探したが、本種の食痕と思われる食餌植物を確認することができたが、実際に幼虫を確認することはできなかった。

また、大町市はミヤマモンキチョウの北アルプスにおける分布の北限地域にあたるが、分布には疑問が多い。調査日時は、平成 17 年 7 月 20 日～7 月 22 日（蓮華岳コマクサの訪花昆虫調査同行）、9 月 28 日～9 月 30 日（爺ヶ岳周辺）実施した。調査内容は、調査時期に併せて本種の目視確認のほか幼虫の食餌植物の状況について調査した。今回の調査では両地域において本種の生息の確認をすることができなかった。昨年生息を確認できた蓮華岳から針ノ木岳の間においても本種の確認をすることができなかったことから、当該地域は本種の北アルプスにおける分布の北限地域であるため、本種の発生状況が不安定であることも考えられた。

本年度の調査については、館の他の事業の影響を受け、当初計画していた調査時期に調査を実施することができず、延期および調査回数の縮小を余儀なくされたことから、今後は調査時期を厳選した計画をたて、さらに精度の高い野外調査を実施し正確な生息状況を把握したい。

(3) 里山の甲虫調査（担当：清水）

里山に生息する昆虫を指標として里山の環境保全についてを考えるため、甲虫の背中に文字や数字を書き込み放し、再捕獲することにより行動範囲を調べた。本調査は長野県環境保全研究所との共同調査という形で、平成 17 年度では、山岳博物館友の会「こども探検クラブ」と「大町北小学校」の小学生の協力を得て実施した。調査期間は平成 17 年 7 月 17 日～9 月 23 日であり、大町市内においてカブトムシ・ミヤマクワガタなど 99 個体にマーキングをつけ、そのうち 3 個体が再捕獲された（内 2 個体は同一個体）。再捕獲まで 10 日以上時間の経過があったが、いずれの個体もほぼ同一場所での確認であった。なお、このような調査は性格上、単年度では結論が得られないことから、継続調査としデータの蓄積を図りたい。また、今後はデータの精度を上げるため、マーキング個体数を増やす必要があり、調査人数を増やすことが課題である。

(4) 21世紀 COE プログラム研究協力 (担当: 清水)

岐阜大学では、平成 14 年度より文部科学省の助成による 21 世紀 COE プログラム「野生動物の生態と病変からみた環境評価」研究教育事業を実施している。この研究にかかわる研究協力者として、平成 15 年よりライチョウの糞便(野生個体・飼育個体)の採取などを実施している。平成 17 年度では 7 月 21 日に蓮華岳周辺より、9 月 28 日~9 月 30 日には、爺ヶ岳周辺においてライチョウの糞便検体を採取し提供した。また、過去に飼育されていた個体の冷凍資料などを病理学的研究資料として提供等した。

(5) ニホンカモシカの糞中窒素含有率に関する研究協力

(担当: 清水、飯島、倉間、前橋)

ニホンカモシカの餌資源の季節的な利用効率を検討することを目的とした日本大学生物資源科学部野生動物学研究室の調査として、一年のうち約 3 ヶ月毎に飼育中のニホンカモシカへの酸化クロムの投与、糞便採取ならびに採食時間記録の為に赤外線ビデオ撮影等を行い、飼育下カモシカの採食時間と採食量・消化速度と消化率の調査に資料の提供等協力した。

(6) 安曇地方の絶滅危惧植物の生活史と増殖法の研究 (担当: 千葉)

対象植物は、絶滅危惧 A 類ホロムイソウ、アズミノヘラオモダカ、準絶滅危惧フクジュソウ、ササユリで、生育地での観察とともに栽培個体の観察を行った。

ホロムイソウ

自生地で今年も開花が見られたことから葯の裂開状況についてビデオカメラを用いて、撮影を行った。また昨年課題として残った開花期間中の気温を測定した。

アズミノヘラオモダカ

昨年発芽した実生の追跡調査を行った結果、早い個体では、2 年目に開花個体に至ることが明らかになった。

フクジュソウ

生活史研究のひとつとして博物館で育てて 4 年目になる個体の観察を行ったが開花にまでは至らなかった。

自生地に集合瘦果が熟した散布期に、落下した瘦果には数種のアリが集まり、運ぶことを確認した。また同時に写真およびビデオ撮影を行ったが、アリの同定が課題として残された。

ササユリ

夜間にササユリの訪花昆虫の観察を大阪学院大学林一彦教授らとともに観察を行った。その結果、新たにエゾシモフリスズメの訪花を確認した。同時にベニスズメ、コスズメ、コエビガラスズメ、ハネナガブドウスズメの写真撮影ができた。

生活史研究のひとつとして博物館で育てて 5 年目になる個体の観察を行ったが、主茎を持つ個体はあったものの開花には至らなかった。

(7) コマクサの生活史の研究 (担当: 千葉)

7 月 19~21 日に蓮華岳においてコマクサへ訪するマルハナバチの観察を行うとともに写真およびビデオ撮影を行った。その結果、コマクサへはオオマルハナバチ、ナガマルハナバチおよびニッポンヤドリマルハナバチの 3 種が訪花し、そのうち、オオマルハナバチのみが盗蜜するのを確認した。

(8) 大町周辺の山人たちの活動と近代登山黎明期への影響(担当:関)

遠山品右衛門、上條嘉門嘉門次、小林喜作ら北アルプスの山人(やまうど)について、彼らが使った道具など関係資料の所在を確認するとともに、二次資料を収集した。主に文献上で見られる関係記述を個別に拾いあげてまとめた。これをもとに三方の生涯や当時の登山史上での出来事などを盛り込んだ年表を作成し、平成 18 年度の企画展での展開に向けて準備を進めている。

教育普及事業

1. 展示

(1) 常設展示

展示テーマおよび展示資料点数 総計 1,437 点（平成 18 年 3 月 31 日現在）
内訳（自然科学系 合計 623 点、人文科学系 合計 814 点）

展示テーマ	展示資料 点数	展示テーマ	展示資料 点数
3F 展望室 「北アルプスの展望」コーナー	計 4 点	1F ホール・特別展示室 「山と芸術」コーナー	計 61 点
		絵画 2	21 点
2F 第 2 展示室 1 「山岳の自然」コーナー	計 623 点	その他	19 点
北アルプスのかたち	24 点	ピッケル	21 点
北アルプスの生いたち	80 点	1F 第 1 展示室	
里山から高山までの生物	235 点	「山と登山」コーナー	計 749 点
ライチョウ	7 点	北アルプスの登山史	322 点
さわれる剥製	5 点	北アルプスの山小屋	46 点
溪谷の生物	35 点	登山の道具	152 点
湖の生物	60 点	遭難	57 点
湿原の生物	55 点	エベレスト周辺の地形模型	39 点
剥製ライブラリー	102 点	日本人の海外登山	108 点
パレットライブラリー	20 点	山のコラム	25 点

1 一次資料のほか、一部写真パネルなど含む。

2 絵画作品については、特別・企画展開催の際は展示替えのため公開していない。

新規展示

a. 小谷部全助の山日記（担当：関）

- ・時 期：平成 17 年 4 月 26 日～
- ・場 所：1F 第 1 展示室
- ・概 要：昭和初期、不世出のクライマーとして活躍した小谷部全助の山日記を展示し、写真や登攀ルート図によって解説。
- ・展示資料：小谷部全助の山日記 3 冊
- ・所 見：昭和初期の登山に関する展示を充実することができた。この資料は平成 17 年度に新しく編集・発行した展示解説書でも紹介している。

b. 曾根原文平使用の鉈（担当：関）

- ・時 期：平成 17 年 4 月 26 日～
- ・場 所：1F 第 1 展示室
- ・概 要：それまで展示していた曾根原文平使用の鉈に替わり、あらたに寄託によって借り受けた同様の鉈を展示。
- ・展示資料：曾根原文平使用の鉈

c . 現代の冬山登山者 全身人形 (担当：関)

- ・時 期：平成 17 年 12 月 27 日～
- ・場 所：1F 第 1 展示室
- ・概 要：「登山の道具」コーナーに現代の冬山登山者（服装・装備の一例）の全身人形を展示。この人形を構成する資料は平成 14 年に株式会社モンベルより寄贈いただいたものの一部である。
- ・展示資料：現代の冬山登山者（服装・装備の一例）

(2) 企画展示

「播隆・槍への道程 善の綱をたどれば」(担当：関)

- 会 期：平成 17 年 6 月 4 日（土）～8 月 21 日（日）
緊急臨時休館のため、実際は 8 月 9 日（火）にて終了
- 会 場：特別展示室・ホール
- 監修・協力：ネットワーク播隆代表・黒野こうき氏
- 後 援：信濃毎日新聞社 朝日新聞松本支局 中日新聞社 読賣新聞松本支局
毎日新聞松本支局 産経新聞社長野支局 大糸タイムス株式会社 民友信州
市民タイムス FM 長野 SBC 信越放送 NBS 長野放送 (株)テレビ信州
長野朝日放送(株) アルプスケーブルビジョン(株) 大町市有線放送電話農協
- 概 要：本展の展示構成は「第 1 部 念仏行者・播隆 人と足跡」「第 2 部 播隆の槍ヶ岳開山」「第 3 部 播隆研究アラカルト」からなり、槍ヶ岳開山を成しとげた播隆とそれを支えた人びとの姿を紹介してそこに込められた当時の思いを探ることを目指し、岐阜・富山・長野県などに現存する播隆上人ゆかりの実物資料約 60 点を展示した。
- 主な展示資料：播隆上人所持「錫杖頭」「托鉢椀」、播隆上人作「鎗ヶ嶽絵図」ほか
- 見学者数：6,092 名（有料入館者 5,588 名、無料入館者 504 名 うち招待者 121 名）
- 関連イベント：
 - ・第 6 回播隆シンポジウム「播隆を探る 近世の聖と播隆」 6 月 5 日（日）
（主催：ネットワーク播隆・市立大町山岳博物館、場所：サン・アルプス大町）
 - ・山博おもしろミニゼミ「播隆上人と槍ヶ岳開山」(場所：館内) 6 月 18 日（土）
 - ・山博おもしろミニゼミ「播隆展解説」(場所：館内) 7 月 9 日（土）
 - ・山博おもしろミニゼミ「フィールドを巡る 播隆上人の史跡探訪」
(場所：大町市～三郷村～松本市) 7 月 31 日（日）
 - ・(緊急臨時休館のため中止) 山博おもしろミニゼミ「播隆展解説」(場所：館内)
8 月 13 日（土）
 - ・(緊急臨時休館のため中止) 山博おもしろミニゼミ「播隆研究アラカルト」
(場所：館内) 8 月 21 日（日）
- 関連印刷物：
 - ・チラシ 10,000 部
 - ・展示資料目録（印刷機にて若干部印刷）
 - ・企画展解説書 500 部（@200 円で一般販売）
 - ・山と博物館 1,000 部

j. 所見：当時の社会状況や槍ヶ岳開山以外での播隆の活動にふれることで、これまでとは異なる視点で播隆を紹介できた。また、普段は目にする機会の少ない各地の播隆に関する実物資料を一堂に会してご覧いただけた。解説書は好評で完売したが、部分カラーで印刷したかった。より分かりやすい展示ストーリーや興味をひく展示方法など工夫が必要だった。借用資料に関して、展示環境や運搬方法などを改善しなければ、今後貴重な資料を借り受けての企画展開催は難しいと感じた。

「動物写生画展」(担当：関)

- a. 会期：平成17年7月9日(土)～18日(月・祝日)
- b. 会場：講堂(入場無料)
- c. 概要：春の動物写生大会に参加した園児、児童・生徒のみなさんが描いた博物館付属園内の動物や風景の絵画作品全156点を展示。
- d. 主な展示資料：園児、児童・生徒による絵画作品156点
- e. 関連イベント：
 - ・春の動物写生大会(場所：付属園) 4月28日(金・祝)～5月8日(日)
 - ・写生画審査会(場所：講堂) 5月12日(木)
 - ・中部ブロック写生コンクール 6月5日(日)
(主催：日本動物園水族館協会中部ブロック、場所：名古屋市東山総合公園)
 - ・写生画表彰式(場所：講堂) 7月18日(月・祝)
- f. 所見：毎年恒例の地域の子供向けの企画展。絵画作品のほかに、付属園で飼育中の動物や付属園の役割などについて写真パネルや説明パネルによって紹介した。これにより、付属園でのカモシカの保護・繁殖事業や野生動物の救護活動について市民などに広く知っていただく機会にもなった。

「くさばなの一生 日本の草本と外来草本の生活史 - その営みとなぞにせまる!! - 」(担当：千葉)

- a. 会期：平成17年10月1日(土)～12月9日(日)
- b. 会場：特別展示室・ホール
- c. 監修・協力：清水建美・日本山草本植物の生活史研究プロジェクト
緊急臨時休館のため、平成18年7月22日(土)～9月10日(日)に延期。

「キノコ展」(担当：千葉)

- a. 会期：平成17年9月23日(金・祝)～9月25日(日)
- b. 会場：講堂(入場無料)
- c. 概要：パネルを用いてキノコの正体の紹介および今年採れた生のキノコの展示。
- d. 見学者数：48名(芳名簿記帳者数)
- e. 関連イベント：キノコ学習会
- f. 展示協力者一覧(敬称略・五十音順)：飯島八郎・太田勇・清沢由之・高野哲哉・博物館友の会
- g. 所見：昨年は165種であったが、今年は139種であった。来館者は興味を持って見学したと思われる。

「きのこ中毒防止展示会」(担当：千葉)

- a. 会 期：平成 17 年 10 月 1 日(金・祝)～2 日(日)
- b. 会 場：ジャスコ新大町店(入場無料)
- c. 概 要：長野県大町保健所と共催でパネルや、生のキノコを展示。

(3) 特別展示

「近藤辰郎写真展 槍ヶ岳讃歌」(担当：宮野)

- a. 会 期：平成 17 年 9 月 3 日(土)～9 月 15 日(木)
- b. 会 場：特別展示室・ホール
- c. 概 要：「コンタツおじさん」と親しまれ、山々に名をはせる近藤辰郎さんは北アルプスの撮影に力を入れてきました。写真集『槍ヶ岳讃歌』は 30 年におよぶ集大成であり、その中のいくつかの作品を展示した。
- d. 主な展示資料：カラー写真(約 600×830mm) 計 35 点
- e. 見学者数：1,378 名
- f. 関連イベント：9 月 11 日(日)午後 2 時より 3 時までギャラリー・トークを開催、作品ひとつひとつの撮影時のエピソードなどについてユーモアを交えながらスピーチした。参加者 74 名。
- g. 所 見：アスベスト検査のための休館直後であったため、すでに特別展の開催広報がされている中、アスベストのための休館のお知らせが錯そうし、利用者に迷惑をかけたものと思われる。

信濃毎日新聞社松本本社創設 55 周年事業のひとつとして同社との共催事業とし、槍ヶ岳山荘から後援をいただき、ポスター、チラシの製作ができた。また、富士フィルムイメージテック株式会社からはプリント制作の負担をいただいた。このように経理面からも新たな手法を手がけることができた。また、ギャラリー・トークは作品の持つ意味や内面に潜んでいる作者の思いなどを知っていただく良い機会であった。

(4) その他(ミニ企画展示、新着資料展示、移動展示など)

写真展「黒部ダムと黒部をめぐる山々」(担当：宮野)

- a. 会 期：平成 17 年 4 月 10 日(日)～5 月 29 日(日)
- b. 会 場：扇沢総合案内センター2 階ホール(大町市)
- c. 概 要：昭和 57 年以前の旧館に展示してあったモノクロ全倍パネル写真(大きさ 60×90 cm) 24 点を展示。

パネル展「世界の切手」(担当：関)

- a. 会 期：平成 17 年 4 月 20 日(水)～27 日(水)
- b. 会 場：ホール
- c. 概 要：財団法人切手の博物館(東京都豊島区)主催「切手と山に魅せられて」展開催の関係し、同館から提供していただいた「世界の切手」パネルを展示。

新着資料展「ヒマラヤ高峰9座の岩石」(担当：関)

- a. 会 期：平成17年8月27日(土)～9月2日(金)
- b. 会 場：ホール
- c. 概 要：緊急臨時休館からの再開に合わせて、故・名塚秀二氏がヒマラヤの高峰9座へ登頂した際に各山から持ち帰った岩石9点を展示。これら資料は平成17年度に名塚氏の夫人・好子氏より当館へ寄贈いただいたものである。

「安曇野アートライン美術館展」(担当：関)

- a. 会 期：平成18年1月14日(土)～2月5日(日)
- b. 会 場：国営アルプスあづみの公園 テーマ展示館 多目的ホール(安曇野市)
- c. 概 要：安曇野アートライン推進協議会に加盟する美術館・博物館所蔵の作品や、各館の紹介パネルなどを展示。公園の来館者に安曇野のアートにふれていただいた。各館をめぐるスタンプラリーも同時開催。当館からは山川勇一郎作の水彩画3点を出品。

2. 館内活動

(1) 学習会・講座の開催

春の動物写生大会(担当：関)

- a. 開催日：平成17年4月29日(土)～5月8日(日)
- b. 場 所：付属園
- c. 講 師：荒井泰三(写生指導)
- d. 協 力：博物館友の会
- e. 参加者数：156名(園児20点、小学生129点、中学生7点)
- f. 関係イベント：
 - ・ 写生画審査会(場所：講堂) 5月12日(木)
 - ・ 中部ブロック写生コンクール 6月5日(日)
(主催：日本動物園水族館協会中部ブロック、場所：名古屋市東山総合公園)
 - ・ 動物写生画展(場所：講堂) 7月9日(土)～18日(月・祝日)
 - ・ 写生画表彰式(場所：講堂) 7月18日(月・祝)
- g. 概 要：市内や周辺の幼稚園・保育園の園児、小・中学校の児童・生徒を対象にした付属園の動物や園内風景を画題とする写生大会。動物に親しみながら写生を楽しむ機会を提供し、毎年好評である。今回は昨年に続いて開催日数を増やし、より多くの児童・生徒の方々に参加いただけるよう対応した。特に開催期間中、昨年に続いて市内小学校の2学年の全クラスが写生の授業で来園し、その際に描いた作品が先生を通じて当館へ届き、本大会に学年単位で参加いただいた。

山博(さんばく)おもしろミニゼミ

小・中学校の完全週5日制に対応したイベントとして、平成14年から毎週末に開催。館内での講座や野外での自然観察などを行なう。館内の場合、基本的に1日2回(同じ内容)1回10～20分程度の所要時間。野外の場合、基本的に半日あるいは終日の所要時間で1日1回開催。内容は展示に付随する解説、研究の成果、タイムリーな話題など幅広い分野において実施。

参加者は市外・県外からの来館者がほとんどであり、そうした方々に北アルプス山麓の自然に関する話題や展示資料の詳しい紹介を行なうことで、館内の見学に付加価値を得て帰っていただくケースが多い。また、市民や友の会会員を中心に、定期的に参加いただけるリピーターの方も現われてきている。

開催日			題名(担当)*野外活動の場所(空白は館内)	参加者数		
月	日	曜		大人	子供	計
4	2	土	雪庇(柳澤)	6	0	6
	3	日	フクジュソウとカタクリ(千葉)	12	0	12
	9	土	春の昆虫(清水)	8	0	8
	10	日	後立山連峰(関)	8	0	8
	16	土	展示室のライチョウ(宮野)	8	2	10
	17	日	雪形ってなーに?(清水)	31	0	31
	23	土	環境ホルモン(柳澤)	3	0	3
	24	日	ダーウィンとサクラソウ(千葉)	11	2	13
	30	土	山の名前を覚えよう(関)	30	0	30
5	1	日	展示室のライチョウ(宮野)	22	1	23
	7	土	春の山 鹿島槍本谷へ遊びに行こう(柳澤)*鹿島槍本谷	8	4	12
	8	日	小鳥の声を聞く会(清水)*鷹狩山	26	8	34
	14	土	安曇野の雪形(清水)	2	0	2
	15	日	高山植物の女王につかえる昆虫たち(千葉)	17	0	17
	21	土	登山者の登力(柳澤)	5	0	5
	22	日	カモシカの行動(宮野)	18	2	20
	28	土	セッケイムシとは(清水)	4	2	6
29	日	タネに隠された秘密 アリとの関係(千葉)	9	0	9	
6	4	土	北鎌尾根の遭難(柳澤)	7	0	7
	11	土	カモシカの残したのから生活を探る(宮野)	12	0	12
	12	日	ヒメギフチョウのサナギ(清水)	12	0	12
	18	土	播隆上人と槍ヶ岳開山(関)	5	0	5
	19	日	ササユリ タネ作りに隠された秘密(千葉)	11	0	11
	25	土	カモシカの食べ物(宮野)	4	0	4
	26	日	ナイロンザイル(柳澤)	5	0	5
	7	土	日本最小のトンボ「ハッチョウトンボ」(清水)	34	0	34
7	3	日	高山植物イワギキョウ 花のひみつ(千葉)	6	0	6
	9	土	播隆展解説(関)	6	0	6
	10	日	カモシカの顔(宮野)	9	2	11
	16	土	ロープの結び方(柳澤)	28	0	28
	17	日	カブトムシのふしぎ(清水)	7	4	11
	23	土	選手交代をお知らせします ヒツシユウカ(千葉)	4	0	4
	24	日	カモシカの角(宮野)	17	3	20
	30	土	雷(柳澤)	43	0	43
	31	日	フィールドを巡る 播隆上人の史跡探訪(関)	4	0	20
8	6	土	カブトムシとクワガタムシ(清水)	3	2	5

	7	日	カモシカの休み場所(宮野)	20	0	20
	27	土	トリカブト 花のつくりと虫の関係(千葉)	0	0	0
	28	日	いっしょにカモシカ調査隊(宮野)*高瀬川渋沢	9	5	14
9	3	土	カモシカの爪(宮野)	6	0	6
	4	日	ヒキガエルはなぜ山に登る?(清水)	11	2	13
	10	土	大町の子山岳写真家・手塚順一郎(関)	8	2	10
	11	日	「槍ヶ岳讃歌」近藤辰郎ギャラリートーク	74	0	74
	17	土	熱中症(柳澤)	7	30	37
	18	日	山の上の女王対決~コマクサとライチョウ(千葉)	33	0	33
	23	金	キノコ学習会(千葉)*鷹狩山周辺	30	2	32
10	1	土	山岳画家・山川勇一郎(関)	1	0	1
	2	日	クロツバメシジミの生活史(清水)	22	0	22
	8	土	アーネスト・シャックルトンの南極探検	7	0	7
	9	日	こんなお花みたことあるかな?白いお花 大集合! (千葉)	10	0	10
	15	土	山岳画家・足立源一郎(関)	21	0	21
	16	日	カモシカは尾根が好き?沢が好き?(宮野)	28	0	28
	22	土	百年前の山の絵 大下藤次郎(関)	18	0	18
	23	日	ツリガネニンジンはなぜ夕方に咲く(千葉)	5	0	5
	29	土	高山病(柳澤)	13	0	13
	30	日	アリとコオロギ(清水)	6	0	6
11	6	日	リングワンデリング(柳澤)	5	0	5
	13	日	種を運んだのはだ~れ?(清水)	7	0	7
	20	日	昆虫はサクラソウの上空をこんなふうに飛んでいる! (千葉)	0	0	0
	27	日	カモシカの鳴き声は?(宮野)	0	0	0
12	4	日	山の版画家・畦地梅太郎(関)	0	0	0
	11	日	ちょっとエベレストまで(宮野)	0	0	0
	18	日	チョウのサナギーその形からわかることー(清水)	2	2	2
	25	日	高い山、低い山 標高いろいろー(関)	3	0	3
1	7	土	カモシカの生活をのぞいてみよう(宮野)*高瀬川 渋沢	1	1	2
	8	日	雪崩(柳澤)	3	0	3
	15	日	小枝の卵の正体は?	0	0	0
	22	日	山岳風景画鑑賞の楽しみ	1	0	1
	39	日	花の開閉 - フクジュソウとカタクリ -	3	2	5
2	5	日	ガンジス川の源流	0	0	0
	12	土	ライチョウ飼育の歩み	2	0	2
	19	日	高山植物と昆虫の知恵比べ	13	5	18
	26	日	親子探鳥会	6	5	11
3	5	日	小説『氷壁』とふたつの遭難	5	0	5
	19	日	アリを誘惑するエライオソーム - 種子のゆくえ -	27	0	27
	26	日	山岳画家・中村清太郎	15	0	15
参加者数合計				1023	99	1122

*印は野外での活動。

(2) 各種学習会・講座への協力

期日	内容・場所など	主催など	参加者数	担当
H17年				
5/8、6/11・25、7/17・24、8/6・10・13、9/4・11、11/13、12/18・23・24、2/11・19	里山の甲虫調査・探鳥会勉強会	山博友の会「子供探検クラブ」	延べ56名	清水
5/20	登山事前学習	大町仁科台中学校2学年	151名	柳澤、宮野
6/15	総合的な学習「地域学習」	白馬高等学校1年生	36名	宮野、関
6/17	総合的な学習「絶滅危惧生物に関して」	大町仁科台中学校2年生	12名	清水
6/21	登山事前学習	大町高等学校1年生	170名	柳澤、宮野
6/22	総合的な学習「地域学習」	白馬高等学校1年生	36名	千葉・関
7/2	PTA活動	大町西小学校3学年	65名	宮野
9/2	総合的な学習	大町第一中学校1年生	8名	清水・関
9/30	社会見学	白馬北小学校2年生	74名	柳澤
11/15	研修視察	菅平自然館	13名	柳澤・宮野 清水
		参加者数合計	617名	

(3) 各種実習の受入

期日	内容	実習者	参加者数	担当
H17年				
7/21 ~7/22	職業体験学習 動物飼育	穂高東小学校	1名	飯島、倉間、前橋
7/25 ~7/26	職業体験学習 動物飼育	小谷中学校3年生	2名	飯島、倉間、前橋
7/28	研修	松川中学 教員	1名	宮野、清水
8/7~ 8/13	動物飼育実習	ヤマザキ動物専門学校 3年生	1名	飯島、倉間、前橋
8/25 ~26	職業体験学習 動物飼育	大町第一中学校2年生	2名	飯島・倉間 前橋
9/6	職業体験学習 動物飼育	仁科台中学校 2年生 八坂中学校 3年生	3名	飯島・前橋
9/20 ~25	学芸員実習	信州大学4年生(1名)	1名	全員
		参加者数合計	11名	

職業体験学習

動物飼育に関して、餌の調理・給餌・清掃などを飼育担当職員が指導を行なった。

学芸員実習

学芸員実習は博物館における実践的な側面の学習を主眼におき、山岳博物館では 10 日間の実習を原則としてしている。本年は 1 名を受け入れが、学生の都合もあり 6 日間の実習であった。特にキノコ展の準備等の実習にあたった。

(4) 収蔵資料などの貸出

期 日	企画展・書籍・番組名など	貸出先	貸出資料
H17 年			
4 / 1 ~ H18.3 / 31	教育普及用	新潟県	ライチョウ剥製 2 点
4 / 1 ~ H18.3 / 31	常設展示用	京都市動物園	カモシカ骨格標本 2 点
4 / 12 ~ 20	みんなのスタジオプラザ N	NHK 長野放送局	ポジフィルム 5 点
4 / 22 ~ H18.3 / 31	山崎斌展	池田町立美術館	展示ケース 3 台
5 / 10 ~ 14	若き日の山を語る	吹田市立博物館	鋏底登山靴 1 点
5 / 17 ~ 6 / 29	信越放送ニュース	信越放送	ポジフィルム 13 点
5 / 27 ~ 6 / 7	土曜ワイド劇場 山岳刑事・道原伝吉	東通企画	ヨーロッパライチョウ剥製など 6 点
7 / 20	NBSスペシャル 白馬山荘の 100 年	ビデオ企画	紙焼写真 1 点
7 / 20 ~ 10 / 7	山の文学展	山梨県立文学館	紙焼写真 2 点
9 / 10 ~ 11 / 30	山の文学展	山梨県立文学館	山岳資料 13 点
8 / 5	大下藤次郎 水絵の福音使者	美術出版社	ポジフィルム 1 点
9 / 1 ~ 3 / 31	信州スキーマイカープラン	JTB 中部	ポジフィルムほか 6 点
9 / 19	国内稀少種の紹介	環境省自然環境局	デジタル写真 3 点
11 / 4 ~ H18.3 / 31	新館オープン記念特別展	富山市大山歴史民俗史料館	信越連帯新道高札 1 点
11 / 9	産経新聞	産経新聞社	紙焼写真 1 点
11 / 11	『定本 浅間山』	郷土出版社	展示資料の撮影・写真掲載
9 / 27 ~ 12 / 1	孤高の画家 尾竹正躬展	大町市教育委員会生涯学習課	美術資料(保管分)約 70 点
H18 年			
1 / 8 ~ 2 / 14	冬の特別企画展「氷壁」展	井上靖文学館	切れたナイフザイルなど 2 点
2 / 13 ~ 14	『山と溪谷』No.851	山と溪谷社	山岳資料の撮影・写真掲載
3 / 8	『学習院登山史()』	学習院山桜会	写真資料の転載
3 / 16 ~ 貸出中	『なるほど知図帳 長野』	コパニカス	写真資料 9 点、昭文社刊

このほかにも多数の各種照会や報道機関・雑誌編集社などによる取材があり、随時これらに協力した。

3. 館外活動

(1) 学習会・観察会の開催

小鳥の声を聞く会(担当:清水)

a. 開催日:平成 17 年 5 月 8 日(日)

b. 場 所:山岳博物館から鷹狩山山頂

- c. 講 師：腰原正己・鳥羽悦男・長澤修介
- d. 協 力：博物館友の会
- e. 参加者数：一般 14 名 友の会会員 20 名 計 34 名
- f. 概 要：野鳥を中心とした自然観察会を山岳博物館友の会の協力を得て実施した。観察した鳥類は、アトリ（初記録）・コサメビタキ（営巣）・サンコウチョウ・オオルリ・サンショウクイなど計 42 種。

この観察会は、今回で 25 回を数え鷹狩山での調査記録を蓄積した。このように同じ場所での調査を継続することにより、野鳥の生息動向などを知る重要な資料が得られる。事業の継続調査を望む。

キノコ学習会（担当：千葉）

- a. 開催日：平成 17 年 9 月 23 日（金・祝日）
- b. 場 所：山岳博物館から鷹狩山周辺
- c. 講 師：太田勇・飯島八郎・高野哲哉・清沢由之
- d. 参加者数：31 名
- e. 概 要：キノコ等を通して自然の仕組みと付き合い方を考えることを目的として実施した。野外で指導やテキスト配布は効果的であり、キノコを通して自然の仕組みや付き合い方を理解してもらえたと思う。

親子探鳥会（冬鳥の観察会）（担当：清水）

- a. 開催日：平成 18 年 2 月 26 日（日）
- b. 場 所：木崎湖周辺
- c. 講 師：腰原正己・鳥羽悦男・長澤修介
- d. 参加者数：大人 6 名 子供 5 名 計 11 名
- e. 概 要：平成 15 年度に同じ場所で開催した冬鳥を中心とした自然観察会を実施した。降雪により視界が非常に悪く、フィールドスコープを使用しても色の識別が出来ず種の判別が困難であったことから、記録した鳥類はカワアイサ・カンムリカイツブリなど 8 種と少なかった。子供たちは、冬の厳しい自然の中で力強く生活している生き物の姿を感じとることができたようであった。

（2）各種観察会・学習会への協力

協力事業

期日	内容（場所）など	主 催	参加者数	担当
H17 年				
4 / 30	植物観察会（居谷里湿原）	大町市文化財センター	60 名	千葉
5 / 12 ~ 22	雪形のある風景写真展 （ギャラリーいーずら）	大町市、北アルプス雪形 まつり実行委員会	出展作品 4 点	関
5 / 15	雪形なんでも討論・発表会 （ギャラリーいーずら）	大町市、北アルプス雪形 まつり実行委員会	1 8 名	関
5 / 22	雪形ウォッチング （市内～南・北安曇郡内）	大町市、北アルプス雪形 まつり実行委員会	5 5 名	関
5 / 22	第 4 回北アルプス雪形まつり （大町市文化会館）	大町市、北アルプス雪形 まつり実行委員会	約 1,500 名 （各種催し延べ数）	関

5 / 27	登山事前学習会（校内）	大町第一中学校 2 学年	1 2 6 名	柳澤
5 / 28 ~ 29	雪上技術講習会 （鹿島槍ヶ岳北俣本谷）	長野県山岳総合センター	2 8 名	柳澤
6 / 10	信州山案内人試験 （山岳センター人工岩場）	長野県山岳総合センター	4 5 名	柳澤
6 / 11	文化財講座（文化財センター）	文化財センター	2 5 名	柳澤
6 / 21	総合的な学習「里山の甲虫調査」（校内）	大町北小学校 4 学年	3 2 名	清水
7 / 13	総合的な学習「里山の甲虫調査」（校内）	大町北小学校 4 学年	3 2 名	清水
7 / 22 ~ 23	リーダーコース研修会 （鹿島槍ヶ岳北俣本谷支流 3 ノ沢ほか）	長野県山岳総合センター	2 3 名	柳澤
7 / 25	キャンプ自然学習会（木崎～青木湖）	仁科台中学 1 学年	3 1 名	清水
8 / 2	野外実習（親海湿原）	大町高等学校 1 学年	40 名	千葉
8 / 27 ~ 29	講師研修会 （高瀬川支流唐沢）	長野県山岳総合センター	1 4 名	柳澤
8 / 31	講演「山岳と地域文化 - 山岳文化都市の 未来 - 」（大町合庁）	長野県老人大学大北学部 1、2 学年	1 4 1 名	柳澤
9 / 3 ~ 4	大町市民登山（立山） しおり作成協力も含む	大町市教育委員会体育課	3 7 名	柳澤
9 / 10	NPO 事例発表「山博友の会」（大町合庁）	長野県 NPO 推進室	3 0 名	宮野
10 / 7	遠足講師（欽ノ峰前山）	大町南小学校 6 学年	6 8 名	宮野
10 / 20	総合的な学習「山の動物と植物」 （鹿島川猫鼻）	大町北小学校 4 学年	3 3 名	清水
10 / 22	仁科三湖クリーンラリー講師	大町市生活環境課	2 5 名	清水
10 / 29 ~ 30	信州登山案内人能力向上研修（人工岩場 ほか）	長野県山岳総合センター	4 0 名	柳澤
11 / 30	総合的な学習「里山の甲虫調査」（校内）	大町北小学校 4 学年	3 2 名	清水
H18 年				
1 / 28	針ノ木講話 語り継ぎたい百瀬慎太郎（黒 部観光ホテル）	針ノ木山岳会	約 50 名	関
1 / 28	講師研修会（黒沢尾根）	長野県山岳総合センター	4 6 名	柳澤
2 / 9 ~ 12	冬山講習会（黒沢尾根）	長野県山岳総合センター	3 7 名	柳澤
3 / 4 ~ 5	リーダーコース研修会 （仏崎岩場、堰堤人口岩場ほか）	長野県山岳総合センター	2 2 名	柳澤
		参加者数合計	約 2,594 名	

共催事業

a. 第 6 回播隆シンポジウム「播隆を探る 近世の聖と播隆」（担当：関）

- ・開催日：平成 17 年 6 月 5 日（日）
- ・場 所：サン・アルプス大町
- ・共 催：ネットワーク播隆
- ・協 力：槍ヶ岳山荘、播隆上人奉賛会

・後援：長野県・松本市・三郷村・朝日村の各教育委員会

・参加者数：約 150 名

・関係イベント：

・概要：企画展「播隆・槍への道程 善の綱をたどれば」に関連したシンポジウムとして開催（参加無料）。槍ヶ岳開山で知られる播隆上人を中心にして、江戸時代に信州などで活動した聖（ひじり）と呼ばれる民間宗教者たちの姿を探った。

基調講演「播隆の生涯と近世の聖たち」（ネットワーク播隆代表・黒野こうき）、「弾誓寺・史跡見学について」（大町市文化財センター学芸員・清水寿隆）、播隆展の見学（自由参加）パネルトーク「播隆を探る 近世の聖と播隆」（パネラー：布川欣一、宮島佳敬 進行：黒野こうき）史跡見学・弾誓寺（自由参加）。

・所見：岳都ならびに山岳文化都市を自負する大町市と当館にとって、槍ヶ岳の登山史は地域文化を探る上でも欠くことのできないテーマであり、今回のシンポジウムは大きな参考となった。槍ヶ岳開山を成した播隆や近代登山以前の登山の様子、さらには当時の社会状況を参加者に知っていただく好機となった。なお、当日は友の会会員 2 名のボランティアに協力いただいた。

（3）調査研究に関する発表

植物関連（担当：千葉）

これまでの研究成果を「コマクサの生活史および繁殖特性」と題して、研究指導者である清水建美氏（信州大学名誉教授・金沢大学名誉教授）と連名で、長野県植物研究会誌に投稿した。

ライチョウ保護事業関連（担当：清水）

第 141 回日本獣医学会学術集会で「飼育下および野生ライチョウ（*Lagopus mutus japonicus*）における腎臓病変に関する病理学的研究」と題して、村井厚子¹、村田浩一²、山口剛士³、酒井洋樹¹、柳井徳磨¹、柵木利昭¹（¹岐阜大獣医病理、²日大生物資源動物、³岐阜大獣医微生物）と連盟で、「ニホンライチョウ（*Lagopus mutus japonicus*）飼育個体からの鶏痘ウイルス遺伝子の検出」と題して、Mi Htay Htay Yu¹、山口剛士²、大屋賢司²、柳井徳磨³、福土秀人²（¹岐阜大動物生産栄養、²岐阜大獣医微生物、³岐阜大獣医病理）と連名でポスターセッション発表を行った。

4．執筆・出版

（1）執筆

各担当職員

当館の調査研究および教育普及事業にかかわる職員の執筆活動について、今年度の実績は以下の通り。（「山と博物館」を除く）

a．柳澤

・幕岩 S 字ルート

『日本人の登山家が愛したルート 50』：東京新聞出版局「岳人」編集部編

b．関

・市立大町山岳博物館の活動について

『山岳文化学会論集第 2 号』：山岳文化学会 2005

大系タイムス連載「山博おもしろゼミ」

地元新聞社との協力によって平成 15 年 3 月から行なっている新聞へのシリーズ連載。当館で毎週末開催している「山博（さんぱく）おもしろミニゼミ」の内容を中心に北アルプスや身近な自然あるいは登山の歴史などについて、隔週土曜日の地元新聞紙面にて紹介している。平成 16 年 2 月までは毎週掲載していたが、同年 3 月以降は大町市文化財センターの連載が加わったため、隔週にて連載を行なっている。

新聞の紙面を借りることで、北アルプスや身近な自然あるいは登山の歴史などについて多くの方々に向けて効果的に情報発信することができる。また、記名記事であることから博物館職員の“顔”が見えるということで市民から好評を得ている。

発行月日	回	執筆者	題 名
平成 17 年			
4 月 16 日	79	柳澤	ちょっとエベレストまで
30 日	80	宮野	ライチョウの調査から分かること
5 月 21 日	81	宮野	ライチョウの調査から分かること
28 日	82	柳澤	処女峰アンナプルナとナイロン製品
6 月 11 日	83	関	登山史見て歩記 長尾阿弥陀堂跡
25 日	84	関	登山史見て歩記 女鳥羽の滝
7 月 9 日	85	千葉	高山植物 ガンコウラン
23 日	86	清水	マツの葉を食べる虫
8 月 6 日	87	千葉	高山植物 イワギキョウ
20 日	88	千葉	高山植物 ハクサンフウロ
9 月 3 日	89	清水	ヒキガエルはなぜ山を登る？
17 日	90	清水	肉を食べるスズメ
10 月 1 日	91	柳澤	山は危ねー
15 日	92	宮野	ニホンカモシカの顔
29 日	93	柳澤	リングワンデリング
11 月 12 日	94	宮野	カモシカは尾根が好き？沢が好き？
26 日	95	清水	小枝の卵の正体は？
12 月 10 日	96	千葉	ツリガネニンジンなぜ夜に咲く
24 日	97	関	高い山、低い山 - 山の高さいろいろ - (前)
平成 18 年			
1 月 14 日	98	関	高い山、低い山 - 山の高さいろいろ - (後)
28 日	99	清水	冬の昆虫採集
2 月 11 日	100	柳澤	挑戦
25 日	101	宮野	フクロウの狩り
3 月 11 日	102	宮野	ライチョウの名前
25 日	103	関	小説「氷壁」とふたつの遭難(上)

(2) 出版

新規出版物

a. 『北アルプスの自然と人 市立大町山岳博物館展示案内』(担当：関)

財団法人日本生命財団(大阪市)の出版助成を得て平成17年度より編集を進めてきた当館の常設展示図録を平成17年4月10日に発行した。体裁B5判56頁(うちカラー28頁) 定価350円(当館や市教育委員会の他施設で販売)。同財団のご厚意により、八坂村・美麻村・大町市の合併による新市誕生(平成18年1月)に合わせて出版の助成をいただいた。

本書の執筆は主に当館職員が行った。ただし、地質分野については外部の専門家先生方に依頼した。また、各専門の先生方に校閲していただき、監修を行なっていただいた。

平成17年4月21日に大町市役所で本書の贈呈式が行われ、完成品3,860部を同財団から大町市へ寄贈していただいた。そのうちの860部を県内の小・中・高校、図書館などへ贈呈した。

b. 企画展示解説書

- ・黒野こうき監修/当館編『播隆・槍への道程 善の綱をたどれば』(担当：関)
(発行日：平成17年6月4日、発行部数：500部、体裁：A4判、35頁、単色刷り)
好評につき、会期中に完売した。

c. 展示解説情報シート

常設展示に関して、展示解説パネルでは紹介しきれない情報を項目ごとにまとめたA4判のカラープリント。館内にて1部30円で販売しており、今年度は847部の売り上げがあった。

第1展示室「山と登山」コーナーでは、平成16年8月に語句の訂正や年代修正などを中心にした改訂を行なったが、今年度中も随時、訂正箇所の修正などを行なった。また、小谷部全助の山日記の新規展示に際して「小谷部全助の山日記」「鹿島槍ヶ岳荒沢奥壁北稜の初登攀」のシートを、近年のエベレスト(チョモランマ、サガルマータ)の再測量結果発表にともない「エベレストの高度」を新規追加した。

d. 『山と博物館』(担当：関)

昭和31年2月に『やまと博物館』として創刊(昭和32年1月に改題)した当館編集・発行による月刊機関誌。毎月、各分野の方々に原稿を寄せていただくなどして、北アルプスを中心とした山岳の自然や歴史などの「山岳文化」と博物館の活動について広く情報発信を続けている。

毎月25日発行、発行部数1,000部。体裁A4判、二ツ折4頁(基本型) 単色刷り。定価100円。年間購読料1,500円(送料含む)。

平成18年3月31日現在、購読者数552名。内訳は市内145名(有料5名、無料29名、友の会111名)、市外407名(有料67名、無料231名、友の会109名)。

巻号	発行月	頁	題名	著者名
50 ・ 4	4月		(春の後立山連峰) *	(大町山岳博物館)
			「山岳科学」の創造に向けて	高石道明
		~	山岳映像企画 2004 報告	大町山岳博物館
50 ・ 5	5月		播隆上人修行場跡「播隆窟(坊主の岩屋)」 *	黒野こうき
			開催にあたって	大町山岳博物館
		~	企画展「播隆・槍への道程 善の綱をたどれば」	大町山岳博物館
50 ・ 6	6月		検討結果と提言をまとめた報告書が武田委員長から腰原市長へ手渡された(2005.5.25) *	(大町山岳博物館)
			博物館のライチョウ保護のあり方	大町山岳博物館
		~	大町山岳博物館ライチョウ保護事業検討委員会 提言	同検討委員会
50 ・ 7	7月		もうひとつの山の楽しみ方 文・イラスト *	とよた時
		~	昭和初期の鹿島槍荒沢奥壁 小谷部全助、森川新三郎の荒沢奥壁北稜の冬季初登攀をめぐる (前編)	柳澤昭夫
50 ・ 8	8月		マーキング作業をする子ども達 *	清水博文
			里山の甲虫調査	清水博文
		~	昭和初期の鹿島槍荒沢奥壁 小谷部全助、森川新三郎の荒沢奥壁北稜の冬季初登攀をめぐる (後編)	柳澤昭夫
50 ・ 9	9月		厳冬の朝 西岳山頂から 1月上旬 *	近藤辰郎
			開催にあたって	大町山岳博物館
		~	槍ヶ岳讃歌	近藤辰郎
50 ・ 10	10月		当日は地元中学生によって大会宣言が行われました*	(大町山岳博物館)
			第六回ライチョウ会議山梨大会	ライチョウ会議事務局
		~	自然環境教育施設と学校教育	小林 毅
50 ・ 11	11月		2004年7月27日 烏帽子岳 *	大町山岳博物館
			委員長挨拶	高石道明
		~	大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会 提言(事業計画案)(前編)	同策定委員会
50 ・ 12	12月		2005年9月28日 爺ヶ岳 *	大町山岳博物館
			大町市におけるライチョウ保護事業の進め方	大町山岳博物館
		~	大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会 提言(事業計画案)(後編)	同策定委員会
51 ・ 1	1月		ノルウェー・トロムセ上空より *	(大町山岳博物館)
			市制施行五十周年記念フォーラムを振り返って	腰原愛正
		~	北極海探検史と環境問題(前編)	太田昌秀
51 ・ 2	2月		ノルウェー・トロムセにて *	(大町山岳博物館)
			山岳博物館と環境問題	柳澤昭夫
		~	北極海探検史と環境問題(後編)	太田昌秀
51 ・ 3	3月		キンクロハジロ *	清水博文
			親子探鳥会「冬鳥の観察会」	清水博文
		~	南アルプス芦安山岳館の紹介	深沢剣一

*印は表紙写真等を示し、この場合の著者名は撮影・提供者名等を記した。

e. 年報（担当：関）

『平成 16 年度年報』（発行日：平成 17 年 12 月 20 日、発行部数：200 部、体裁：A4 判、42 頁、単色刷り）を編集・発行した。

販売中の出版物

現在、販売中の当館編による出版物は以下の通り。（平成 18 年 3 月 31 日現在）

書名	発行先	発行年	備考
山と博物館	大町山岳博物館	毎月 25 日	年間購読、館内販売
展示解説情報シート	大町山岳博物館	随時更新	館内にて販売中
展示案内書	大町山岳博物館	2005 年	〃
カモシカ 氷河期を生えた動物	信濃毎日新聞社	1991 年	書店にて販売中
ライチョウ 生活と飼育への挑戦	信濃毎日新聞社	1992 年	〃
新・北アルプス博物誌	信濃毎日新聞社	2001 年	〃
ブルーガイド旅読本 上高地 安曇野 輝ける大地の自然と人	実業之日本社	2002 年	〃

5. インターネット・ウェブサイト

(1) 公式ウェブサイト（担当：千葉）

今年度は、「なるほど北アルプス画像館」、「いきいき生き物映像館」、「過去の企画展」、「カモシカ園」、「飼育員の奮闘記」、「ハクビシン成長物語」、「鳴き声大全集」、「山と博物館総目録」、を新たに設け、ほぼ毎日、更新した。

URL：<http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/>

(2) 安曇野アートラインウェブサイト（担当：関）

当館が加盟する安曇野アートライン推進協議会では、平成 16 年 9 月から県の補助事業として同会のウェブサイト作成作業を進めており、平成 17 年 4 月に開設した。このサイトはブログ形式で、専門業者の JBN（長野市）が設計した。ここでは当館所蔵の山岳風景画など絵画を中心に紹介し、当館公式ウェブサイトとリンクさせて企画展やイベント情報などを随時発信している。

URL：<http://azumino-artline.net/museum/oomachi/>

6. 友の会（担当：宮野）

(1) 組織

役員

a. 会長 長沢正彦

b. 副会長 渡辺逸雄、有川劭

c. 運営部 部長：井口まり

部員：越山頼子、廣瀬誠、山崎一彦、宮澤洋介、川崎晃、川崎祐子、塩瀬淳也、松坂美治子、栗林稔、丸山卓哉

d. 編集部 部長：宮沢洋介

部員：木村節子、丸山卓哉、岑村隆、清水和俊

e. 事務局 水口貴美代、田村佳美、宮野典夫

f. 監査 有川美保子、倉科恵一

構成（平成 18 年 3 月 31 日現在）

会員種別	会員数	会員種別	会員数
ファミリー会員	447 名(108 ファミリー)	賛助会員	0 団体
個人会員	80 名	終身会員	3 名
学生会員	0 名	名誉会員	5 名
合計	535 名		

(2) 運営部

活動日	参加者	主な内容
平成 17 年		
4 月 28 日(木)		大町市中央通り火災義援金(74,600 円)贈呈:大町市長へ
5 月 28 日(土)	26 名	塩の道を歩く「古道 粟峠を歩く」
7 月 3 日(日)	16 名	史跡・美術館・博物館めぐり「戸隠地質化石館 - 化石を探そう - 」
9 月 10 日(土)		長野県 NPO の広場で活動事例発表:大町合同庁舎にて
10 月 1 日(土) ~ 2 日(日)	15 名	自然観察登山「烏帽子岳・湯の丸山から鹿沢温泉へ」
10 月 23 日(日)	27 名	自然観察会「高瀬ダムから湯俣噴湯丘へ」
平成 18 年		
12 月 11 日(日)	24 名	安曇地域の食文化「手打ちうどん」
2 月 5 日(日)	15 名	冬の自然観察会「歩くスキーと自然観察会」
2 月 19 日(日) ~ 3 月 12 日(日)		山博友の会作品展
3 月 12 日(日)	34 名	平成 18 年度総会 記念講演:千葉彬司「カモシカを中心に温暖化を考える」

(3) 事業部

喫茶「こまくさ」の営業

営業期間は平成 17 年 4 月 9 日(土)~平成 17 年 11 月 27 日(日)

1 階ホール隣でのサービス提供

活動日	参加者	主な内容
9 月 16 日(金)	40 名	マンドリンの演奏会
11 月 27 日(日)	42 名	アルパとギターの演奏会

(4) 編集部

刊行物名	発行日	主な内容
	平成 17 年	
ゆきつばき通信 115 号	4 月 1 日	行事案内...塩の道を歩く「古道 粟峠を歩く」 報告...平成 17 年度友の会総会、総会記念講演要旨 お知らせ...大町市中央通り火災義援金の募金

		博物館から...写生大会、小鳥の声を聞く会、企画展「播隆・槍への道程 - 善の綱をたどれば」、ボランティア募集
ゆきつばき通信 116号	6月1日	行事案内...化石をさがそう 報告...「古道 粟峠を歩く」 博物館から...展示案内書「北アルプスの自然と人」案内
ゆきつばき通信 号外	6月27日	お知らせ...フォルクローレ演奏日程変更
ゆきつばき通信 号外	8月10日	行事案内...烏帽子岳・湯の丸山から鹿沢温泉へ、高瀬ダムから湯俣噴湯丘へ 博物館から...アスベストによる休館のお知らせ
ゆきつばき通信 117号	11月9日	行事案内...手打ちうどん、忘年会、アルパとギターの演奏会 報告...化石を探そう、烏帽子岳・湯の丸山から鹿沢温泉へ、高瀬ダムから湯俣噴湯丘へ
ゆきつばき通信 号外	1月11日	行事案内...歩くスキーと自然観察会、作品展、総会
	平成18年	
ゆきつばき通信 118号	2月24日	行事案内...総会、作品展 報告...手打ちうどん、
ゆきつばき 第34号	3月13日	特集...とっておきのビューポイント 友の会ひろば...行事参加者の感想 三角点...会員の投稿、雑感 行事グラフ...写真で綴る年間行事の紹介 サークルだより...烏帽子の会と子ども探検クラブの報告

(5) サークル活動

子供探検クラブ

野外活動を中心になんでもやってみようという小中学生のサークル。

月 日	内 容	参加者
3月27日(日)	布引の滝の探検	8名
4月29日(金・祝)	南たかがりやまトレッキング	8名
5月7日(土)	鹿島槍本谷で遊ぼう	12名
6月19日(日)	川の始まるところへの探検	4名
7月3日(日)	戸隠化石館	4名
8月13日(土)・14日(日)	夏の星空キャンプ	7名
5月8日(日)、6月11日(土)、25日(土)、 7月17日(日)、24日(日)、8月6日(土)、 10日(水)、13日(土)、9月4日(日)、 11日、11月13日(日)、12月18日(日)	かぶとむしの研究	述べ 56人
12月23日(金・祝)、2月11日(土)、 19日(日)	鳥の勉強会	
2月26日(日)	冬鳥の観察会	6名

烏帽子の会

山歩きのサークル。「連れてってもらおう登山」ではなく「連れてってやる山行」、「次はどの山に行こう」という雰囲気で見学した山に登るサークル。

月 日	内 容	参加者
5月21日(土)	戸谷峰(松本市)	15名
7月23日(土)	風吹大池(小谷村)	11名
10月15日(土)	京ヶ倉(生坂村)の予定が、悪天候のため矢田川の磨崖仏、大塩の桜の見学に変更して実施	9名
11月6日(日)	明星山(糸魚川市)	15名
1月29日(日)	乗鞍高原(松本市)	8名
3月18日(土)	戸隠森林植物園(長野市)	5名

7. ボランティア(担当:宮野)

(1) 友の会との連携

月 日	内 容	参加者数
5月7・8日(土・日)	小鳥の声を聞く会サポート	4名
6月5日(日)	第6回播隆シンポジウムサポート	2名
9月23日(金・祝)	キノコ学習会サポート	5名

(2) その他

月 日	内 容	個人・団体名	参加者数
4月29日(金・祝) 5月4日(水・祝)	春の写生大会指導	荒井泰三	1名
4月29日(金・祝)	博物館周辺清掃活動	天理教	約100名
7月22日(金)	博物館周辺清掃活動	有明高原寮	30名

動植物飼育栽培繁殖事業

1. 動物飼育繁殖（担当：清水、飯島、倉間、前橋、岩本）

(1) 飼育動物

飼育動物の増減

a. 繁殖個体

・ニホンカモシカ

平成 17 年 5 月 15 日 ミネコ（メス）とクロ（オス）の間に 1 個体（オス）の出産があった。親が高齢であり乳成分の低下があると予想されることと、親からの細菌感染を防ぐためにすぐに親と隔離し人工哺育を行った。

平成 17 年 5 月 26 日 マヤ（メス）とシロ（オス）の間に 1 個体（オス）の出産があった。親が高齢であり乳成分の低下があると予想されることと、親からの細菌感染を防ぐためにすぐに親と隔離し人工哺育を行った。

b. 死亡個体

・ニホンカモシカ（オス）平成 17 年 5 月 15 日繁殖個体。平成 17 年 7 月 19 日死亡。死因：長野県松本家畜保健衛生所にて解剖検査の結果、カタル性小腸炎ほかと診断された。

・アルプスマーモット（オス）昭和 60 年 10 月 28 日に大町市とインスブルック市並びに当館とアルペン動物園が友好提携の締結を記念し、交換動物として来館（当館よりカモシカを贈呈）。平成 17 年 8 月 24 日死亡。死因：長野県松本家畜保健衛生所にて解剖検査の結果、多機能不全と診断された。

・ニホンカモシカ（オス）平成 17 年 5 月 26 日繁殖個体。平成 17 年 8 月 29 日死亡。死因：長野県松本家畜保健衛生所にて解剖検査の結果、腎機能障害と診断された。

・ニホンカモシカ（オス）平成 13 年 5 月 14 日繁殖 愛称：五十鈴（いすず）、平成 16 年 6 月 3 日よりブリーディングローン（繁殖を目的とした無償貸付）として石川県森林公園に貸出し中個体である平成 17 年 11 月 12 日死亡。死因：石川県南部家畜保険衛生所にて解剖の結果、カタル性肺炎と診断された。

c. 今後の計画

ニホンカモシカについては、現在飼育している個体の高齢化、野外個体の導入の難しさ、飼育場の問題などから、毎年の出産の見込みは難しい。今後繁殖したニホンカモシカについては友好提携を結んでいるアルペン動物園との交換動物をふまえて、国内動物園間でブリーディングローンを行い、若い個体の確保を計画している（現在、ブリーディングローンとして富山ファミリーパークに 1 個体貸出し中）。

シベリアオオヤマネコが単独飼育（オス）であることから、同種を飼育している財団法人日本動物園水族館協会加盟園とブリーディングローンの検討を進めている。

飼育動物

種名	雄	雌	計	種名	雄	雌	不明	計
ニホンカモシカ	3	4	7	ヤマドリ*	1			1
ホンドキツネ		1	1	トビ*			6	6
ホンドタヌキ		1	1	フクロウ*			1	1
シベリアオオヤマネコ	1		1	オオコノハズク*			1	1
計	4	6	10	計	1		8	9

哺乳類 4 種 鳥類 4 種 合計 8 種 19 個体 * は 2 年以上の長期保護動物を含む

(2) 傷病鳥獣保護

長野県より平成 17 年度野生傷病鳥獣救護事業委託として、大町市および近隣市町村における野性傷病鳥獣救護施設のひとつとして保護動物を受け入れている。

収容個体数

哺乳類 4 種 9 (3) 個体

(ニホンカモシカ 3 ・ ニッコウムササビ 1 ・ タヌキ 3 ・ ハクビシン 2)

鳥類 21 種 59 (15) 個体

(トビ 7 ・ ヤマドリ 1 ・ キジ 11 ・ キジバト 3 ・ ツバメ 13 ・ イワツバメ 4 ・ チョウゲンボウ 2 ・ フクロウ 2 ・ オオコノハズク 1 ・ オシドリ 1 ・ カルガモ 1 ・ キセキレイ 1 ・ ドバト 3 ・ ムクドリ 2 ・ ツツドリ 1 ・ アカゲラ 1 ・ モズ 1 ・ ゴイサギ 1 ・ エナガ 1 ・ ウミアイサ 1 ・ ヤマセミ 1)

合計 68 個体 (そのうち死亡 28 個体 放鳥獣 15 個体 現在飼育中 25 個体)

(U) の個体数は前年度からの継続依頼個体である。

所見

死亡個体のほとんどは、収容時には処置を行っても手遅れまたは、重症の個体であり保護収容当日か数日後に死亡している。このような傾向は過去の実績からも顕著であり、早期における獣医師の処置が不可欠であると考えられる。また、半年以上収容した個体は疾病が完治しても餌付いてしまうことも多く、人工保育で育てた個体と同様、野外に復帰させることが困難となり、長期収容個体となる傾向がみられる。

2. 植物栽培繁殖 (担当 : 千葉)

(1) 栽培植物

栽培植物の増減

新規なし。

栽培植物

コマクサ、フクジュソウ、サクラソウ、ササユリ、ビッチュウフウロ、アズミノヘラオモダカ、イヤリトリカブト、オオシラヒゲソウ、コオニユリ、カキツバタ、クサレダマ、ミズオトギリ、ミソハギ、クララ、トキソウ

ライチョウ保護事業

1. 大町山岳博物館ライチョウ保護事業検討委員会

(担当：清水、千葉、関)

当館ではライチョウ飼育研究に取り組みこれまで40年にわたり低地飼育を実施してきた。平成16年2月に最後の1個体が死亡したことを契機に過去の事業について見直し、今後の取り組みについて検討する委員会を平成16年9月より計4回開催した。平成17年5月25日には、本委員会における検討結果の報告書「氷河期から生きるライチョウとともに 大町山岳博物館におけるライチョウ保護事業の今後のあり方」として、今まで実施してきた事業に対しての客観的な評価と、今後、大町市として取り組むべきライチョウ保護事業指針についての提言をご提出いただいた。

委員

委員長：武田武（山岳博物館協議会）

副委員長：高石道明（信州大学山岳科学総合研究所）

低地飼育分野：村田浩一（日本大学・獣医学）・山口剛士（岐阜大学・獣医微生物学）

野外調査研究分野：中村浩志（信州大学・動物生態学）・土田勝義（信州大学・植物生態学）

社会教育分野：腰原正己（穂高西小学校長・日本野鳥の会）

オブザーバー

環境省自然環境局・林野庁中部森林管理局・長野県生活環境部環境自然保護課・長野県林務部森林保全課・長野県教育委員会文化財生涯学習課

(1) 第4回大町山岳博物館ライチョウ保護事業検討委員会

日時：平成17年5月25日 午前9時30分～11時50分

場所：大町市役所 東中会議室

出席者：武田武・高石道明・土田勝義・腰原正己・村田浩一・中村浩志

環境省（木暮朋子・加藤志穂子）・林野庁（元島清人）・長野県自然保護課（江住和彦）・長野県森林保全課（小池一成）・長野県文化財生涯学習課（小池功治）

大町市（腰原愛正・丸山一由・宇田義一・柳澤昭夫・宮野典夫・清水博文・千葉悟志）

内容：

- a. 報告書案の最終調整と報告書の提出

2. 大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会（担当：清水、千葉、関）

山岳博物館ライチョウ保護事業検討委員会からの提言に基づき、より具体的な事業計画案を作成するために市教育委員会では本策定委員会を設置し、8名の委員を委嘱した。平成17年7月7日より11月8日まで計4回の委員会を開催し、報告書として事業計画案をご提出いただいた。内容はライチョウ保護事業を「自然と人間の共生」と大きな位置づけの中で、大町市の「まちづくり」の総合プロジェクトとする必要性を提言する「グランドデザイン」と、グランドデザインに基づいた「ライチョウの将来的な危機に備えるセーフティネットの構築」についての学術的・技術的提言の「パイロットプラン」の2つからなるものである。この提言を受けて、大町市では教育委員会を中心にどのような体制で事

業展開していくのかについての検討を行った。

委員

委員長：高石道明（信州大学山岳科学総合研究所）

副委員長：村田浩一（日本大学・獣医学）

グランドデザイン分科会：佐竹節夫（豊岡市企画部コウノトリ共生課）・武田武（山岳博物館協議会）・藤沢秀（山岳博物館協議会）・高石道明

パイロットプラン分科会：桑名貴（独立行政法人国立環境研究所）・小宮輝之（東京都恩賜上野動物園）・山口剛士（岐阜大学・獣医微生物学）・村田浩一

オブザーバー

環境省中部地方環境事務所・環境省長野自然環境事務所・林野庁中部森林管理局・長野県生活環境部環境自然保護課・長野県林務部森林保全課・長野県教育委員会文化財生涯学習課

（１）第１回大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会

日 時：平成 17 年 7 月 7 日 午後 1 時 30 分～4 時 30 分

場 所：大町市役所 東大会議室

出席者：桑名貴・小宮輝之・山口剛士・高石道明・武田武・藤沢秀

中部森林管理局（元島清人）・長野県自然保護課（江住和彦）・長野県文化財生涯学習課（小池功治）

大町市（腰原愛正・丸山一由・宇田義一・柳澤昭夫・宮野典夫・清水博文・千葉悟志）

内 容：

- a. 委員委嘱と本策定委員会設置要綱説明
- b. 役員を選出
- c. 山岳博物館ライチョウ保護事業検討委員会報告書について説明と委員会への要望
- d. 豊岡市のコウノトリ保護事業の取組みについて

（２）第２回大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会

日 時：平成 17 年 8 月 10 日 午前 9 時～午後 12 時

場 所：大町市役所 庁議室

出席者：高石道明・村田浩一・小宮輝之・佐竹節夫・武田武・藤沢秀

環境省中部地方環境事務所（木暮明子）・中部森林管理局（元島清人）・長野県自然保護課（江住和彦）・長野県文化財生涯学習課（小池功治）

大町市（丸山一由・宇田義一・柳澤昭夫・宮野典夫・清水博文・千葉悟志）

内 容：

- a. グランドデザインについて
- b. パイロットプランについて
- c. 豊岡市のコウノトリ保護事業の取組みについての報告と意見交換
- d. 分科会の設置（グランドデザイン・パイロットプラン）

（３）第３回大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会

日 時：平成 17 年 9 月 22 日 午前 9 時 20 分～午後 12 時

場 所：大町市役所 東大会議室

出席者：高石道明・山口剛士・武田武・藤沢秀

環境省長野自然環境事務所（加藤志穂子）・中部森林管理局（元島清人）・長野県自然保護課（江住和彦）・長野県文化財生涯学習課（小池功治）
大町市（丸山一由・宇田義一・柳澤昭夫・宮野典夫・清水博文・千葉悟志・関悟志）

内 容：

- a. 各分科会における検討結果と提案について

（４）第４回大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会

日 時：平成 17 年 11 月 8 日 午前 9 時～11 時 20 分

場 所：大町市役所 東大会議室

出席者：高石道明・村田浩一・桑名貴・佐竹節夫・山口剛士・武田武・藤沢秀

環境省長野自然環境事務所（加藤志穂子）・長野県自然保護課（江住和彦）・長野県文化財生涯学習課（小池功治）・長野県森林保全課（小池一成）

大町市（腰原愛正・丸山一由・宇田義一・柳澤昭夫・宮野典夫・清水博文・千葉悟志・関悟志）

内容：

- a. 報告書案の最終調整

- b. 報告書提出

各分科会は 8 月 12 日から 10 月 27 日の間、メールなどを用い随時意見交換を行い計画案を作成した。

3. 大町市におけるライチョウ保護事業の展開方針

（担当：柳澤、宮野、清水）

大町市では、大町山岳博物館ライチョウ保護事業検討委員会と大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会から提出された提言を重く受け止め、教育委員会を中心に慎重に検討した結果、次のような事業展開方針を決定した。

大町市で実施するライチョウ保護事業について

（１）はじめに

大町市（教育委員会）では、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会から、ライチョウ保護を「自然と人間との共生」という大きな潮流のなかに位置付け、大町市の「まちづくり」の総合プロジェクトとするランドデザインと、もうひとつはライチョウの将来的な危機に備えるセーフティー・ネットをいかに構築するかという学術的、技術的なパイロットプランの提言を受けた。

大町市で検討した結果、ライチョウ保護事業は本来、国等が中心となって進める事業であり、現時点では、ランドデザインを基調とした事業を大町市が実施することについては、提言を尊重しながらも、すべてを直ちに展開することは困難である。また、パイロットプランの実施にあたっては当市の財政事情を考慮すれば、国・県の支援が得られるまでは、事業を見合わせざるを得ない。

（２）今後の方針について

「ライチョウと共に生きる」を理念とした考え方を取り入れながら、山岳博物館が主体

となってライチョウに関する事業を展開する。

現地（生息域内）調査を中心に調査研究事業を進め、調査結果については教育普及活動等に活用する。

ライチョウに関する教育活動を学校教育、社会教育、登山者への啓発という側面から展開し、情報の収集・発信に努める。

パイロットプランについては現時点では計画の遂行を凍結し、国や県の援助体制や財政状況の動向をふまえて今後、実施の判断をする。

（３）事業展開について

当面の間、現地調査、教育普及活動の２つを大きな柱にすえて、下記の内容を中心に事業を展開する。

なお、調査事業については、外部専門家を交えた委員会を設置し、具体的事業内容を決定したい。

現地調査

- a．現状把握調査として「生息場所」、「生息数」等。
- b．生息環境調査として「植生環境」、「ライチョウをとりまく動物環境」、「積雪環境」等。
- c．繁殖調査として「採餌」、「エネルギー出納」、「遺伝的特性と多様性」等。
- d．保護対策調査として「環境の変化と生息状況の変化」等。

教育普及活動および啓発活動

- a．登山者や山小屋からのライチョウに関する情報の収集。
- b．「企画展」「講演会」等の開催
- c．ポスター・パンフレットなどの作成と配布・掲示。
- d．ライチョウの生態と保護についての「副読本」「映像資料」を作成。
- e．環境教育プログラムを作成し、フィールドにおける「観察会」や学校教育での「総合学習」での活用。

（４）ライチョウ保護事業の展開における基本方針

平成 18～20 年を第 1 次 3 ヶ年計画とし、平成 18 年度は調査項目、調査地、調査方法等を確立するための基礎的事項の調査や情報収集を行う。

平成 19・20 年度は 18 年度の基礎調査をもとに、本格的調査に取り組む。

平成 21 年度以降は、成果と評価とを勘案し次のステップに進む。

事業は、その目的と期間を明確にし、内部評価、外部評価ができる体制をとり、調査の充実を図り、成果については幅広く公開し活用する。

環境省・文化庁をはじめ、研究機関・大学・支援団体との連携により、強いネットワークのもとに、調査の向上や効率の高い教育普及活動に努める。

4．第 6 回ライチョウ会議山梨大会（担当：清水、千葉）

平成 17 年 8 月 20 日～8 月 21 日の 2 日間、山梨県南アルプス市芦安小学校体育館で、行政・研究者、一般市民等のべ約 300 名が参加した。

1 日目は「ライチョウの生息を脅かす環境要因」、「地球温暖化が南アルプスのライチョウに与える影響」等の報告、シンポジウム「南アルプスのライチョウの保護と高山植物の保全」、「総会」が行われた。2 日目には、基調講演「日本における野性生物の保護と課題」、

シンポジウム「ニホンライチョウの保護と課題」等が行われ、2 日間にわたり南アルプスにおけるライチョウの現状についてを中心とした研究・活動報告、行政・研究者等との情報交換を行い、ライチョウ調査・研究の現状把握とその方向性を探った。また、特別講演として高円宮妃殿下による「地球環境を考える」が行われた。

今後も当面事務局は大町市が行い、平成 15 年より発足した NPO 法人ライチョウ保護研究会との協力体制や、組織など会のあり方については昨年引き続き検討を行う。次回会議の開催地は静岡県静岡市で行う準備を進めている。

その他

1. 各種委員などの委嘱

高山植物等保護対策協議会中信地区理事（柳澤）
北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会参与（柳澤）
大町博物館連絡会会長（柳澤）
大町市観光協会理事（柳澤）
大北地方特定鳥獣保護管理対策協議会委員（柳澤）
長野県山岳総合センター運営懇談会委員（柳澤）
ライチョウ会議検討委員（柳澤）
桜まつり実行委員（柳澤、宮野）
慎太郎祭実行委員（柳澤、千葉）
大町ダム水源流域ビジョン推進方策発案会議委員（宮野）
市制 50 周年記念イベント実行委員会専門部会委員（宮野）
仁科三湖対策協議会（宮野）
北アルプス雪形まつり実行委員（関）
山梨県南アルプス高山帯生態系調査検討委員（清水）

2. 信州大学山岳科学総合研究所との研究協力協定の締結

平成 17 年 7 月 5 日、信州大学山岳総合研究所（藤沢謙一郎所長）と当館は、次のような目的による研究協力協定について締結を行なった。

「山岳および大町市とその周辺地方の民俗、歴史などの資料を収集、保管、展示し一般の観覧に供し、本邦における山岳文化などの普及並びに調査研究を行う市立大町山学博物館と、信州の自然と社会をフィールドとして、山岳およびそれに連なる里山における自然と人間の相互関係にかかわる諸問題の解決を目指した研究を行い、新しい学問領域「山岳科学」を創造しようとする信州大学山岳科学総合研究所は、相互の連携の意義を深く認識し、自然と人間の共生の諸課題探求に力をあわせて貢献するため、ここに研究協力協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

3. アスベスト検査による緊急臨時休館

平成 17 年 8 月 10 日～26 日、アスベスト検査により緊急臨時休館。

4. 市町村合併にともなう住所表記の変更

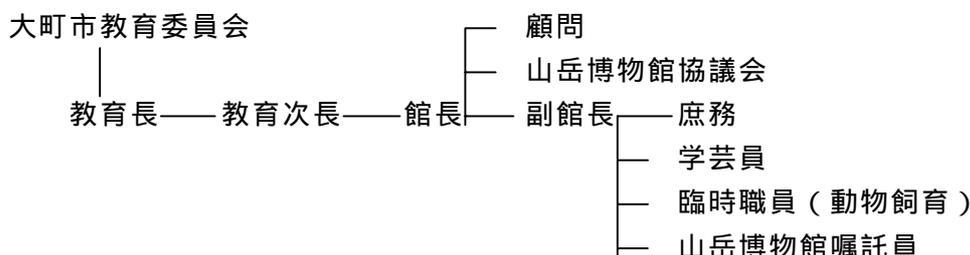
平成 18 年 1 月 1 日の 1 市 2 村（大町市、美麻村、八坂村）との合併（大町市への編入合併）にともない、当館の住所表記に変更が生じた。なお、郵便・電話番号に変更はない。

旧表記 長野県大町市大字大町 8056 - 1 新表記 長野県大町市大町 8056 - 1

運営

1. 組織および職員構成

(1) 組織



(2) 顧問

千葉彬司

(3) 協議会委員

学校関係者：中山俊夫

社会教育関係者：武田武（会長）、有川美保子、松原繁、横川仁

知識経験者：藤沢秀（副会長）、飯澤茂雄、井口まり、金原義子、高石道明、朝重孝治

(4) 嘱託員

(5) 職員

名簿

館長 柳澤昭夫（嘱託）

副館長 宮野典夫（学芸員兼務）

庶務 勝野直人

学芸員（自然科学系）清水博文、千葉悟志

（人文科学系）関悟志

臨時職員（動物飼育）飯島志津、倉間友恵、前橋基子、岩本尚也

人事異動

転出 学芸員・岑村隆（平成17年4月1日付にて建設課庶務係へ）

転入 庶務・勝野直人（平成17年4月1日付にて福祉課福祉係より）

退職 臨時職員・倉間友恵（平成17年9月30日付）

新規採用 臨時職員・岩本尚也（平成17年11月1日付）

2. 協議会

(1) 第1回協議会

日時：平成17年7月19日 午後1:30～午後4時

場所：山岳博物館 講堂

出席者：武田武、藤沢秀、中山俊夫、松原繁、金原義子、飯澤茂雄、

丸山一由、柳澤昭夫、宮野典夫、清水博文、千葉悟志、関悟志

内容：・会長、副会長の選出

会長に武田委員、副会長に藤沢委員

・報告

平成17年度事業の進捗状況として教育普及事業、展示事業、動物飼育・傷病鳥獣保護事業、調査研究事業、資料収集保管事業、その他
信州大学山岳科学総合研究所との研究協力協定について

・協議

大町山岳博物館ライチョウ保護事業検討委員会の内容について

大町市ライチョウ保護事業計画策定について

今後の博物館事業として、付属園のあり方について、登山史の展示リニューアルに向けての登山史の構築について、企画展の方針と展開の方法について、資料保管の課題と方針について、教育普及活動での調査研究からの発展および環境教育への取り組みについて

(2) 第2回協議会

日時：平成17年12月20日 午後2：30～4：30

場所：山岳博物館 講堂

出席者：武田武、藤沢秀、中山俊夫、有川美保子、松原繁、金原義子、井口まり、丸山一由、宇田義一、柳澤昭夫、宮野典夫、清水博文、千葉悟志、関悟志

内容：・報告

平成17年度事業の進捗状況として事業経過、入館者状況、アスベストについて

・協議

ライチョウ保護事業について

平成18年度事業について

3. 入館者状況

(1) 過去の入館者状況

(単位：人)

年度 (昭和)	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般 減免	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中生	
26	291		100	21		77	489				
27	2,425		1,022	186		1,514	5,147				
28	8,922		2,229	725		1,216	13,092				
29	7,779		1,831	625		1,189	11,424				
30	6,831		1,664	1,445		945	10,885				
31	2,148		888	1,036		858	4,930				
32	1,934		658	826		1,880	5,298				
33	2,979		1,032	1,469		2,417	7,897				

年度 (昭和)	有料入館者						無料入館者				
	個人			団体			計	一般 減免	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中生	
34	2,972		626	1,727		1,788	7,113				
35	3,635		878	1,943		2,143	8,599				
36	4,181		1,329	2,132		2,521	10,163				
37	5,313		1,633	4,549		2,748	14,243				
38	6,394		1,854	4,727		2,918	15,893				
39	10,464		1,658	12,600		1,520	26,242				
40	14,214		1,696	8,050		1,600	25,560				
41	10,399		1,711	13,070		1,500	26,680				
42	12,891		1,649	8,301		3,059	25,900				
43	18,458		2,071	17,769		3,240	41,538				
44	16,273		2,100	10,845		3,749	32,967				
45	13,405		1,941	11,623		3,960	30,929				
46	18,414		3,001	14,718		3,193	39,326				
47	17,500		3,025	13,268		6,877	40,670				
48	25,809		4,178	22,612		5,774	58,373				
49	28,702		4,277	23,432		5,843	62,254				
50	32,345		4,896	23,616		6,835	67,692				
51	32,111		5,142	25,150		8,200	70,603				
52	26,155		4,311	18,907		5,327	54,700				
53	26,346		4,158	24,903		8,722	64,129				
54	27,769		4,485	25,089		6,600	64,003				
55	25,743		4,414	19,909		6,972	57,038				
56	31,697		7,558	16,182		9,695	65,132				
57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965			7,965
58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026			9,026
59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117			8,117
60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770			6,770
61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509			4,509
62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605			3,605
63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269			6,269
平成 1	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709			3,709
2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844			4,844
3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577			4,577

年度 (平成)	有料入館者						無料入館者				
	個人			団体			計	一般 減免	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中生	
4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413			3,413
5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587			3,587
6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376			3,376
7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376			5,376
8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174			2,174
9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	49,143	1,429			1,429
10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686			1,686
11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206			1,206
12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,874	1,187			1,187
13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,304	1,497	387	826	2,710
14	20,527	472	1,744	2,518	675	808	26,744	945	190	445	1,625
15	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	616	1,777
16	14,664	376	1,073	2,875	602	644	20,234	604	51	662	1,317
17	12,065	213	630	3,138	692	928	17,666	1,011	97	491	1,599

(2)平成17年度の入館者状況

(単位:人)

月	有料入館者						無料入館者				
	個人			団体			計	一般 減免	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中生	
4	1082	17	82	296	0	101	1578	20	3	90	113
5	1623	53	125	425	0	6	2232	101	5	261	367
6	704	15	36	276	261	32	1324	168	15	18	201
7	1655	27	68	785	391	585	3511	219	3	61	283
8	973	41	128	237	5	24	1408	30	1	15	46
9	1831	36	41	371	32	124	2435	128	28	13	169
10	1957	11	37	340	0	5	2350	109	16	5	130
11	1019	1	34	269	0	2	1325	95	5	6	106
12	129	5	10	5	0	43	192	45	1	6	52
1	170	0	14	0	0	0	184	15	2	2	19
2	311	2	16	31	0	2	362	46	17	11	74
3	611	5	39	103	3	4	765	35	1	3	39
合計	12065	213	630	3138	692	928	17666	1011	97	491	1599
前年度計	14664	376	1073	2875	602	644	20234	604	51	662	1317
前年度比	82%	57%	59%	109%	115%	144%	87%	167%	190%	74%	121%

(3) 平成 17 年度の開館日数 299日

4. 平成 17 年度予算・決算

(1) 歳入

(単位：円)

項目	観覧料	望遠鏡使用料	県委託金	寄付金	雑入	計
当初 予算額	12,000,000	170,000	0	0	956,000	13,126,000
決算額	6,426,400	91,700	150,000	1,123,000	825,664	8,616,764
	5,573,600	78,300	150,000	1,123,000	130,336	5,509,206

(2) 歳出

(単位：円)

項目	総務費	一般事業費	ライチョウ等山岳動物保護管理費	計
当初予算額	55,602,000	4,467,000	9,203,000	69,272,000
決算額	48,512,442	4,001,249	10,538,007	63,051,698
	7,089,558	465,751	1,335,007	6,220,302

関係条例・規則等

1. 市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年 3 月 29 日
条例第 12 号

改正 昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号 平成元年 3 月 24 日条例第 7 号
平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号 平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号
平成 12 年 3 月 29 日条例第 13 号 平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号

市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）の全部を改正する。

（目的）

第 1 条 この条例は、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号。以下「法」という）第 18 条及び地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、市立大町博物館（以下「博物館」という）の設置及び管理運営に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（設置）

第 2 条 山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査研究を行うため博物館を設置する。

（名称及び位置）

第 3 条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

市立大町山岳博物館 大町市大町 8056 番地 1

（職員）

第 4 条 法第 4 条の規定による館長、学芸員のほか必要な職員を置く。

2 必要に応じ顧問及び嘱託員を置くことができる。

（観覧料）

第 5 条 博物館を観覧しようとする者は、別表第 1 に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

（1）6 歳未満の者

（2）市内の小学校及び中学校に在学する児童又は生徒

（3）市内に住所を有する満 65 歳以上の者

（使用料）

第 6 条 博物館の設備使用料は、別表第 2 に定めるとおりとする。

（観覧料の減免）

第 7 条 大町市教育委員会（以下「教育委員会」という）は、特別な理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

（資料の特別利用）

第 8 条 博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

（賠償責任）

第 9 条 故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

い。

(博物館協議会)

第 10 条 法第 22 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会(以下「協議会」という)を設置する。

2 協議会の委員(以下「委員」という)の数は、15 人以内とし、教育委員会が委嘱する。

3 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委任)

第 11 条 この条例に定めるもののほか必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

1 この条例は、昭和 57 年 6 月 5 日から施行する。

2 この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例(昭和 29 年条例第 18 号)第 5 条の規定により委員として委嘱された者は、この条例第 10 条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第 3 項の規定にかかわらず、昭和 58 年 3 月 31 日までとする。

附 則(昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号)

この条例は、昭和 61 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成元年 3 月 24 日条例第 7 号)

この条例は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号)

この条例は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号)

この条例は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 12 年 3 月 29 日条例第 13 号)

この条例は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号)

この条例は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 17 年 12 月 6 日条例第 80 号)

この条例は、平成 18 年 1 月 1 日から施行する。

別表第 1(第 5 条関係)

種別	区分	単位	観覧料
一般	大人	1 人	400 円
	高校生	"	300
	小人	"	200
団体 (30 人以上の場合をいう)	大人	"	350
	高校生	"	250
	小人	"	150

備考 特別の資料を展示する場合は、1,000 円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

別表第 2(第 6 条関係)

望遠鏡使用料	1 回	100 円
--------	-----	-------

2. 市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年 3 月 30 日
教育委員会規則第 3 号

改正 平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号 平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号
平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号

(趣旨)

第 1 条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和 31 年法律第 162 号)第 33 条第 1 項及び市立大町山岳博物館条例(昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という)第 11 条の規定に基づき、市立大町山岳博物館(以下「博物館」という)の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会(以下「協議会」という)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(職務)

第 2 条 館長は、上司の命を受け、館を統括し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、館長の命を受け、博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 4 条第 4 項に規定する職務を遂行する。

3 その他の職員は、館長の命を受け、職務を遂行する。

4 館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、係長相当職をもって充てる。

5 嘱託員は、学術に関する職務に従事する。

(休館日)

第 3 条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。

(1) 毎週月曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日の翌日(この日が月曜日に当たるときは、その翌日)

(3) 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までの日(前号に掲げる日を除く)

(開館時間)

第 4 条 博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の交付)

第 5 条 条例第 5 条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券(様式第 1 号)に領収印を押印し、交付するものとする。

(観覧料の減免)

第 6 条 条例第 7 条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、博物館観覧料減免申請書(様式第 2 号)を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

(博物館資料の利用等)

第 7 条 条例第 8 条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書(様式第 3 号)を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

2 前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。

(入館制限等)

第 8 条 教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
- (2) 管理上支障があると認められるとき。
- (3) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(資料の寄贈及び寄託)

第 9 条 博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈及び寄託しようとする者は、博物館資料寄贈・寄託書(様式第 4 号)を教育委員会に提出するものとする。

- 2 寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。
- 3 博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害賠償の責を負わない。
- 4 寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。

(資料等の滅失・損傷)

第 10 条 館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。

(協議会の組織)

第 11 条 協議会に、委員の互選による会長及び副会長各 1 名を置く。

- 2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

(協議会の会議)

第 12 条 協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附 則

- 1 この規則は、昭和 57 年 6 月 5 日から施行する。
- 2 市立大町山岳博物館規程(昭和 29 年教育委員会規則第 9 号)及び市立大町山岳博物館協議会規程(昭和 29 年山岳博物館規程第 1 号)は、廃止する。

附 則(平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号)

この規則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号)

この規則は、平成 10 年 1 月 1 日から施行する。

附 則(平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号)

この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

様式(省略)

3. 大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱

平成 17 年 7 月 7 日
教育委員会告示第 8 号

(趣旨)

第 1 大町市におけるライチョウ保護事業の計画を策定するため、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第 2 委員会は、ライチョウの保護事業に関する計画の策定及びその他計画策定上必要な事項を検討するものとする。

(組織)

第 3 委員会は、委員 10 人以内で組織し、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

(任期)

第 4 委員の任期は、ライチョウ保護事業計画の策定業務が終了するまでとする。

第 5 委員会に委員長及び副委員長各 1 人を置き、委員が互選する。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(オブザーバー)

第 6 委員会にオブザーバーを置くことができる。

2 オブザーバーは、ライチョウの保護事業に関し、必要な意見を述べることができる。

(会議)

第 7 委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

(事務局)

第 8 委員会の事務局は、市立大町山岳博物館に置く。

(補則)

第 9 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附 則

この告示は、告示の日から施行する。

施設

1. 敷地面積

39,875.92 m²

2. 本館建物

(1) 構造：鉄筋コンクリート 地上3階 地下1階

(2) 竣工：昭和57年5月31日竣工

(3) 延べ床面積：2,207.0 m²

(4) 床面積表

(単位：m²)

名称および面積	名称および面積	名称および面積	名称および面積
1階 1244.9	倉庫 8.8	2階 686.1	3階 116.8
ホール 205.5	E.V 5.1	24レクチャースペース 113.6	32展望室 94.6
喫茶 74.2	給湯室 3.0	25研究室 69.6	その他(階段)
講堂 110.2	倉庫 3.5	26図書室 34.8	86.9
便所 8.1	EV機械室 6.0	27倉庫 16.0	
映写室 5.4	特別展示室 6.0	28収蔵庫 42.1	地階 159.2
準備室 9.1	第1展示室 290.0	29便所 18.2	33機械室 118.8
事務室 51.0	収蔵庫 104.0	30第2展示室 290.0	34車庫 23.0
館長室 18.6	21荷解・作業室 41.3	31ハッカージ室 14.9	その他(階段)
宿直室 32.5	22ハッカージ室 16.4	その他(廊下、階段)	17.4
便所 29.0	23燻蒸室 12.3		
書庫 16.7	その他(廊下、階段)		
更衣室 14.6	109.2		

3. 付属施設

(1) 付属園(本館隣)の建物(用途別に合算)

(単位：m²)

名称および面積	名称および面積	名称および面積
管理棟1棟 33.44	鳥類(トビ等)1棟 67.65	緊急保護舎1棟 22.62
飼料庫2棟 49.14	孵化・育雛2棟 30.48	中型哺乳類4棟 68.43
	鳥類(旧ライゾウ)6棟 200.84	大型哺乳類2棟 32.12
	鳥類(旧オライゾウ)1棟 46.50	
	鳥類(旧イワシ)1棟 44.88	

利用案内（平成 18 年 3 月 31 日現在）

1. 開館時間

午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

2. 休館日

毎週月曜日、国民の翌日・振替休日の翌日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
月曜日が祝日・休日の場合は開館し、翌日休館 7 月・8 月は無休

3. 交通

公共機関 JR 信濃大町駅から タクシーで 5 分、歩いて 25 分

マイカー 長野自動車道豊科 IC から 40 分

（北アルプスパノラマロード経由 白馬方面へ 28 km）

博物館前に無料駐車場（普通車 30 台・大型バス 5 台収容）

4. 観覧料

区 分	大 人	高校生	小・中学生
個 人	400 円	300 円	200 円
団 体（30 名様以上）	350 円	250 円	150 円

以下の方は無料（観覧料免除）

- ・ 6 歳未満のお子様
- ・ 大町市内の小・中学校に通う児童・生徒の方
- ・ 大町市内にお住まいの 65 歳以上の方

5. そのほか

（1）ユニバーサルデザイン

入口スロープ、車イス用トイレ、車イス対応エレベーター、貸出用車イス、
貸し出し用ベビーカー、ベビーベッド、点訳版パンフレット設置
アシスタントドッグ同伴可能

6. 所在地および連絡先

〒398-0002 長野県大町市大町 8056 - 1

（標高：766m、経緯：北緯 36 度 30 分、東経 137 度 52 分）

TEL：0261-22-0211 / FAX：0261-21-2133

E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp

URL：<http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/>

市立大町山岳博物館 平成 17 年度 年報

平成 18 年 7 月 12 日発行

編集・発行 市立大町山岳博物館

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

TEL:0261-22-0211/FAX:0261-21-2133

印刷・製本 有限会社 北辰印刷

〒398-0002 長野県大町市大町 3871 - 1

TEL:0261-22-3030/FAX:0261-22-2010

2006